生活科学部

履修の手引き

平成28年度版

お茶の水女子大学
平成
28.5.11
受贈
附属図書館

お茶の水女子大学
Ochanomizu University
生活科学部

目　　次

はじめに …… 2
1．生活科学概論について …… 3
2．複数プログラム選択履修制度について …… 4
3．成績評価ならびにＧＰＡ制度について …… 6
4．食物栄養学科 …… 9
5．人間・環境科学科 …… 22
6．人間生活学科 …… 33
発達臨床心理学プログラム …… 35
生活社会科学プログラム …… 40
生活文化学プログラム …… 47
7．生活科学部の副プログラム …… 52
8．生活科学部の学際プログラム「消費者学」 …… 57
9．免許・資格
中学校・高等学校教員免許（家庭） …… 59
学芸員資格 …… 65
社会調査士資格 …… 67
消費生活アドバイザー資格 …… 70
10．生活科学部 学部共通図書室の案内 …… 75
11．生活科学部教員一覧 …… 76

はじめに

この履修の手引きは、「平成28年度」に「生活科学部」に入学された学生のための手引きです。基本的には卒業するまでこの手引きに従って履修することになります。また、「学生便覧　2016年（平成28年）履修ガイド」には大学全体における履修概要、諸資格の取得、諸規定などの説明がありますので、それも参照して履修計画を立ててください。さらに、大学のホームページには各授業科目のシラバスも掲載してありますので履修の参考にしてください。

なお、お茶の水女子大学では新たな教育システムを次のように順次立ち上げています。すなわち、平成23年度から、21世紀型リベラルアーツを基礎として、広い視野のもとに創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ人間を育成する目的で「複数プログラム選択履修制度」を導入しました。学生が主体的に、主プログラムと多様な選択プログラムを組合せて履修することにより、学生の将来の目標にそった専門基礎力が育成できるようになっています。ただし、生活科学部では、複数プログラム選択型の学科と、そうでない学科がありますので注意して履修してください。また、１年次には幅広く学び、２年次にはそれぞれの興味や将来を考えていくつかの分野に分かれて履修をしていく学科もありますので、それぞれのプログラムの説明や主プログラム選択のしくみを十分理解した上で、将来を考えて主プログラムや副プログラムなどの履修計画を立ててください。

また、「カラーコードナンバリングシステム」を導入し、それぞれの授業科目が各学科のカリキュラム全体の中でのどのように位置づけられているかを分かりやすくしました。カラーコードナンバリングやシラバスを参考に４年間の大学生活を見すえて履修計画を立てることを心がけてください。

さらに、平成26年度からは、海外の大学に留学しやすくするなどの目的で「４学期制」を導入しています。ただし、入学年度によって履修の仕方等がそれぞれ異なるところもありますので注意して下さい。

こうしたシステムを活用し、４年後には幅広い視野と専門的な知識を持って卒業していただきたいと思います。

特に、生活科学部は、「身体と精神に関わる諸問題を総合的に見つめ直し、文理融合の多角的アプローチで、生活を科学する」学部で、文系、理系の学科が両方存在していることが特色です。せっかくこのような学際的な学部に入学されたのですから、自分の専門とする学科だけでなく、他の学科の学問領域を学ぶことで、皆さん自身の専門の幅を広げ、また深めることになりますので、積極的に他の学科の科目も履修してください。ちなみに、学部共通科目の「生活科学概論」は、共通のテーマについて全学科の先生が講義する科目ですので、生活科学部とは何かを、また他の学科の学問領域を知るためにも、受講していただきたいと思います。本年度は昨年に引き続き「災害・防災」というテーマでいろいろな視点からアプローチすることになっています。

生活科学部長　香　西　みどり

１．生活科学概論について

はじめに

生活科学概論は、前学期の月曜日５、６時限に行われます。

生活科学部は、生活に関するあらゆる事柄を、文系、理系といった枠組みを超えた、生活者の視点から捉えていこうという基本理念があります。しかし学生の皆さんにとっては、学年が進むにつれて教育内容が高度化、専門化し、所属学科、講座に関する専門領域だけにとらわれがちです。ともすれば生活科学部の存在意義を実感しないままに、卒業してしまうことになりかねません。

この生活科学概論には、前述の生活科学部のもつ基本理念、即ち文系、理系という二分法にとらわれない、生活者の視点を育もうという目論見があります。そのために、生活科学部に所属する教員が自分の専門領域をベースにしながら、一つの共通テーマに関して講義を行います。一連の講義を通して、皆さんには、物事を多面的に捉える視点を身につけると共に、生活科学のさまざま領域にも問題関心を広げ、専門領域や分野を超えて、生活者の視点を学ぶ姿勢、すなわち生活の質（quality of life, ＱＯＬ）とはいったい何か、総合的なＱＯＬをよりよくしていくためにはいったいどうしたらよいのか、ということをつねに問う姿勢を育んでいただきたいと思います。共に考え、話し合い、得られた知識や経験を共有しながら、生活科学部での四年間の学びをより充実したものにしていきましょう。

本年度の内容

１．共通テーマ「災害・防災」

大規模な災害が発生すると、私たちの生命や暮らしは危機的状況に直面します。災害とは自然災害だけではありません。様々な災害による危機に対して、人命を守り、生活を営んでいく上で、私たちは何を知り、どのように行動すればよいでしょうか。本年度は、昨年に引き続き「災害・防災」をテーマに生活科学の各分野から話題を提供し、生活者の視点、そして生活の質という視点から災害や防災について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

２．授業計画

第１回　　生活科学部に関連する資格（教職および消費生活アドバイザー）の紹介
第２回　　大学で学ぶことと生活科学について　香西みどり学部長
第３回以降　「災害・防災」に関する各分野からの話題提供（タイトルは変更の可能性あり）
・「近代日本における災害と防災の政治」他　杉田孝夫（生活社会科学講座）
・「災害を受け止めるこころ・乗り越えるこころ」　藤田宗和（発達臨床心理学講座）
・「地震を知ろう－日本の大地震史」　松浦秀治（人間・環境科学科）
・「戦災復興期における住宅再建および育児」　宮内貴久（生活文化学講座）
・「平成の青木昆陽プロジェクト－食と防災」他　森光康次郎・飯田薫子（食物栄養学科）
・外部講師による公開講演：「3.11直後の復旧活動における岩手県の対応」
第15回　　まとめ

2．複数プログラム選択履修制度について

本学では2011年度より「複数プログラム選択履修制度」を導入しました。本制度は、学生一人ひとりの関心やニーズ、意欲に応じた多様で柔軟な専門教育課程を構築することを目的とするものです。１年次生は、語学や情報を中心とするコア科目とリベラルアーツ科目群の履修が中心となりますが、２年次以降のより専門的な学修に備えて、複数プログラム選択履修制度のねらいやしくみについて十分に理解しておくようにしてください。

なお、生活科学部の食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科のそれぞれの学科ごとに本制度の枠組みに基づくプログラム選択の仕方が異なります。したがって、ここではまず、学科ごとにその概要を記し、その次に共通するルールについて説明します。

１．各学科のプログラム選択の概要

（１）食物栄養学科

食物栄養学科の場合、１年次より管理栄養士受験資格取得のための必修科目が多いため、「主プログラム」「強化（もしくは副・学際）プログラム」という二つ目までのプログラム選択はありません。学科により定められた独自のカリキュラムに沿って学修を進めてください。

ただし、本来の専門教育以外にまとまった学修を希望する場合は、任意で他学科・他学部の提供する「副プログラム」もしくは「学際プログラム」を履修登録して、専門教育に併せて体系的に学んでいくことができます。

（２）人間・環境科学科

人間・環境科学科の１年生は、入学と同時に「人間・環境科学主プログラム」を選択して同プログラムのなかで学んでいきます。そして、２年次の１月ごろに二つ目のプログラムを選択します。二つ目のプログラムとして選択可能なのは、「人間・環境科学強化プログラム」か「消費者学学際プログラム」に限定されています。三つ目のプログラム（選択は任意）については、学科・学部、理系・文系の枠を超えて２年次の１月ごろ以降自由に選択して学ぶことができます。

（３）人間生活学科

人間生活学科の１年生は、まずコア科目やリベラルアーツ科目群を学びつつ、学科の必修科目・選択必修科目を履修して、１年次終了までに、学科の提供する三つの主プログラム（発達臨心理学主プログラム、生活社会科学主プログラム、生活文化学主プログラム）のいずれかを選択します。そして２年次の１月ごろに、すでに履修している主プログラムを基礎として二つ目のプログラムを選択します。また２年次の１月ごろ以降に三つ目のプログラムも自由に選択することができます。

二つ目のプログラムとして選択可能なのは、それぞれの主プログラムに接続する「強化プログラム」、また生活科学部内の他学科、もしくは同一学科の他の主プログラム主宰講座が提供する「副プログラム」、そして「消費者学学際プログラム」のいずれかになります。また三つ目のプログラム（選択は任意）については、理学部の学際プログラムを除き、学科・学部、理系・文系の枠を超えて自由に選択して学ぶことができます。

２．プログラム履修上の注意

（１）主プログラムの選択

人間・環境科学科の１年生は入学時に、また人間生活学科の１年生は１年次の１月ごろに主プログラムを選択します。ただし人間生活学科の学生が、１年次の間に６ヶ月を超えて休学する場合は、申請できません。

（２）二つ目、三つ目のプログラム選択

・人間・環境科学科、人間生活学科の学生は、二つ目までのプログラム選択は必須です。三つ目のプログラム選択については、食物栄養学科も含めてすべての学科の学生が選択できますが、これを選ぶかどうかは任意です。

・二つ目のプログラム選択は同一学部内に限定されていますが、三つ目のプログラムは学部や学科の壁を超えて自由に選ぶことができます。ただし、学修内容によっては選択に制限がかかっているものもありますので、生活科学部履修規程別表第２（『履修ガイド』に掲載されています）で確認してください。

・二つ目のプログラム選択は２年次終了時までに決定します。三つ目のプログラムは２年次の１月ごろ以降、Ｗｅｂ申請可能です。

（３）プログラム選択の相談体制

・主プログラムの選択、またすべての学科の学生の二つ目、三つ目のプログラム選択は、各関係教員と十分に相談しつつ決定してください。とくに、「主プログラム＋強化プログラム」という選択ではなく、「主プログラム＋副（もしくは学際）プログラム」という選択をする場合は、学生が選択している主プログラムの主宰講座、これから選択しようとしている副プログラムの主宰講座（もしくは学科）が共同して学修相談にあたります。

・複数プログラム選択履修制度、ＧＰＡ制度、その他の学修全般に関する相談窓口として、総合学修支援センターが設置されています。こちらも有効に活用してください。

総合学修支援センター
場所：学生センター棟１階
電話：03-5978-2047
E-mail：l-sc@cc.ocha.ac.jp

3．成績評価ならびにＧＰＡ制度について

複数選択プログラム制のスタートに伴い、新しい成績評価制度が導入されました。以下ではそれについて簡単に説明します。詳しい資料が配付されていると思いますので、そちらも参考にしてください。また、不明な点は、総合学修支援センターにもお尋ねください。

１．各科目の成績表示について

成績通知票ならびに成績証明書には、受講した科目の成績が記載されますが、その評価は、数値によるものと、アルファベットによるものの、２種類の並記となります。前者は、素点をベースとした評価であり、グレードポイント（Grade Point、ＧＰと略す）として、0.00～4.50までの数字が記載されます。一方、後者は、レターグレード（Letter Grade、ＬＧと略す）評価であり、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄのいずれかが記載されます。

（１）素点をベースとする評価

担当教員が、成績を点数で付けた場合（必要に応じ、システム側で100点満点の素点評価に変換したうえで）次の式に基づいて、ＧＰが計算されます（小数点第３位以下を切り捨てた、小数点２桁表示です）。

ＧＰ＝（ＳＳ－55）／10　　（ＳＳは100点満点に換算した素点評価）

もし、100点であれば、ＧＰ＝4.50となります。また、60点を合格ラインとしますので、その場合、ＧＰ＝0.50となります。一方、60点未満（不合格）であれば、ＧＰは0.50未満となりますが、その場合は、ＧＰ＝0.00として切り捨てられます。したがって、ＧＰの最大値は4.50、最小値は0.50です（不合格の場合は0.00）。次に、算出されたＧＰに基づき、次のようにＬＧが自動的に決定されます。

3.50≦ＧＰ≦4.50であればＳ
2.50≦ＧＰ＜3.50であればＡ
1.50≦ＧＰ＜2.50であればＢ
0.50≦ＧＰ＜1.50であればＣ
0.00＝ＧＰであればＤ

この後で説明する「レターグレードによる評価」とは異なり、ＧＰには中間点があることになります。

（２）レターグレードによる評価

担当教員が、成績をＬＧ（Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ）で付けた場合、ＧＰは、

Ｓであれば、ＧＰ＝4.00
Ａであれば、ＧＰ＝3.00
Ｂであれば、ＧＰ＝2.00
Ｃであれば、ＧＰ＝1.00
Ｄであれば、ＧＰ＝0.00

が自動的に記載されます。（ＧＰの数字はこの５種類のみであり、中間点はありません。）なお、(1)(2)のいずれの評価でも、Ｓ評価は、評価対象者の15%以内とされています（履修者数が10人未満の場合は２名以下）。

２．ＧＰＡ制度について

前項の方法で求められた各科目のＧＰに対して、平均を求め、ＧＰＡ（Grade Point Average）とします。その際、単位数の重み付けが行われます。計算式は別途配付資料を参照して下さい。

注意：ＧＰＡの算出にあたっては、不合格となった科目すなわち、ＧＰ＝0.00のデータも含まれます。

ＧＰＡの計算方式として、本学では２種類の計算式を利用します。上記の方式に基づくものを、以後、strict GPAと称します。このstrict GPAに対し、

4.00≦ＧＰを一律にＧＰ＝4.00
0.50≦ＧＰ＜1.00を一律にＧＰ＝1.00

とすることで求めたＧＰＡも、成績通知票には記載されます。この値を、general GPAと呼びます。general GPAを計算する理由については別途資料を参照して下さい。

重要：成績に基づいた学内での各種順位付けには、strict GPAが用いられます。

strict GPA、general GPAについて、成績通知票には、取得科目の総平均が「累積ＧＰＡ」として記載されますが、それに加え、ある区分ごと（プログラムごと、カラーコードごと等）のＧＰＡも記載されます。これらのＧＰＡ値をよく読んで履修を振り返り、次の履修計画の参考にして下さい。なお、成績通知票には履修した当該科目の受講生の平均ＧＰが記載されますので、自身の成績と比較することができます。（なお、この平均ＧＰは、成績修正により、当該学期以降に変わることがありえます。）

３．履修取り消し制度（重要）

従来は、講義を一部しか受講しなかったようなケースでは、「履修放棄（Ｘ判定）」という評価を与えてきました（期末試験不受験などのケース）が、この評価は廃止されました。そして、履修放棄に当たるケースには、Ｄ判定が付されます。（ＧＰＡの算出式を振り返って、このことの意味を考えて下さい。）そのため、何らかの理由で履修を取りやめる場合は、**必ず指定期間中に「履修取り消し手続き」**

をweb上で行ってください。

なお、ふつうに講義・期末試験を受け、不合格（D判定）評価を受けた場合でも、次学期以降、再履修により単位を取得した場合は、**当該科目の不合格評価はＧＰＡ算定には組み込まれません**（合格となったデータが使われます）。

以上のことを踏まえ、学生の皆さんは、よく計画を立てて学修に取り組んで下さい。極めて多数の単位取得を目標とする方もいますが、ＧＰＡ評価（計算式）もよく考えたうえで計画を立てるようにして下さい。

4．食物栄養学科　授業科目

４年間で学ぶ授業科目は履修ガイドの生活科学部履修規程（授業科目一覧Ⅱ生活科学部食物栄養学科：別表第１－２）に掲載されています。履修ガイド（別表第３、別表第８、別表第９）に従い、コア科目、専攻科目、学部共通科目、自由選択科目から卒業要件の“最低履修単位数**１３８単位**以上”を履修しなければなりません。

★★★ 栄養士と管理栄養士 ★★★

「**栄養士の免許**」は、本学科（管理栄養士養成課程）を卒業し、都道府県へ免許申請を行えば取得できます。同時に「**管理栄養士国家試験の受験資格**」を得ることができます。そして、卒業年度の３月に実施されている管理栄養士国家試験（年１回）に合格すれば「**管理栄養士免許**」を取得できます（管理栄養士は栄養士の上級資格で、医師免許等と同様に厚生労働大臣免許申請による国家資格のひとつ）。管理栄養士は栄養士よりも、特に保健・医療・教育などの領域で、食を通じて人々の健康づくりや栄養の指導、栄養管理等で貢献できる高度な専門知識と技術を修得した者です。

（履修ガイドの生活科学部履修規程：別表第１－２参照）

必修及び選択必修の科目・単位							自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数
コア科目					専攻科目	学部共通科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康												
30					101	4	3									138

【備考】
1．情報処理演習(1)(2)（情報）２単位は、必修とする。
2．外国語は、ひとつの外国語について12単位を必修とする。※食物栄養学科は英語を優先的に履修するように時間割を組んでいます。
3．スポーツ健康実習２単位を必修とする。
4．必修以外の選択プログラムは、別表第２の学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
5．外国人留学生特別科目（外国人留学生対象科目）の単位については、18単位までをコア科目として取り扱う。
6．生活科学部の「学部共通科目」は、別表第９のとおりとする。これらの科目の履修方法等は、別に定める。
7．特別設置科目は、自由科目の単位として取り扱う。ただし、卒業に必要な単位として取り扱うことのできる単位の上限は、８単位とする。

注意　食物栄養学科には学科の主プログラム／強化プログラム等は無く、管理栄養士養成課程に沿った履修規定となっています。ただし、三つ目の選択プログラム（例「消費者学」学際プログラム）などの履修が可能です（履修規程別表第２）。このような選択プログラムを履修したい場合には、必ず前もって学科カリキュラム担当教員や学年担任と相談すること。

次頁からの記載要領と記号の意味

【記載要領】
例）　代謝栄養学　　2　　Ⅱ
　　（科目名）　（単位数）　（標準履修年次）

【記号】
◎・・・必修科目　→　これを履修しないと卒業できない。
○・・・学科として履修を推奨する科目。

1．履修する科目について

1）専攻科目（必修分）97単位／101単位

食物栄養学科の専攻科目（必修分）は次の科目です。

（学年順 → アイウエオ順、実験・実習は**太字**）

◎解剖生理学Ⅰ	2	Ⅰ	**◎応用栄養学実習**	1	Ⅲ
◎解剖生理学Ⅱ	2	Ⅰ	**◎栄養カウンセリング論実習**	1	Ⅲ
◎基礎調理学実習*	1	Ⅰ	**◎栄養学実験**	2	Ⅲ
◎生化学	2	Ⅰ	◎栄養教育論Ⅱ	2	Ⅲ
◎調理科学	2	Ⅰ	◎栄養疫学・統計	2	Ⅲ
			◎給食経営管理実習	2	Ⅲ
◎栄養カウンセリング論	2	Ⅱ	◎給食マネジメント論	2	Ⅲ
◎栄養教育論Ⅰ	2	Ⅱ	◎公衆衛生学	2	Ⅲ
◎応用栄養学	2	Ⅱ	◎公衆栄養学	2	Ⅲ
◎応用調理学実習	1	Ⅱ	**◎公衆栄養学実習**	1	Ⅲ
◎解剖生理学実験	1	Ⅱ	◎食事療法学	2	Ⅲ
◎給食経営管理論	2	Ⅱ	◎食品衛生学	2	Ⅲ
◎細胞生化学	2	Ⅱ	**◎食品化学実験**	2	Ⅲ
◎生活環境学	2	Ⅱ	◎食品機能論	2	Ⅲ
◎社会福祉学	2	Ⅱ	**◎食品製造・保存学実験**	2	Ⅲ
◎食嗜好評価学	2	Ⅱ	**◎調理科学実験**	2	Ⅲ
◎食品化学	2	Ⅱ	◎病態栄養学	2	Ⅲ
◎食品製造・保存学	2	Ⅱ	◎ライフスタイル栄養学	2	Ⅲ
◎食品微生物学	2	Ⅱ	◎ライフステージ栄養学	2	Ⅲ
◎食品微生物学実験	1	Ⅱ	**◎臨床栄養アセスメント学実習**	2	Ⅲ
◎代謝栄養学	2	Ⅱ	◎臨床栄養療法学	2	Ⅲ
◎分析化学実験	2	Ⅱ	◎食物栄養管理論総合演習Ⅰ	1	Ⅲ
◎臨床医学各論Ⅰ	2	Ⅱ	◎食物栄養管理論総合演習Ⅱ	1	Ⅳ
◎臨床医学各論Ⅱ	2	Ⅱ	**◎栄養臨地実習Ⅰ**	1	Ⅲ
◎臨床医学総論	2	Ⅱ	**◎栄養臨地実習Ⅱ**	3	Ⅳ
◎臨床栄養アセスメント学	2	Ⅱ	◎卒業論文	6	Ⅳ

* 家庭科教諭免許取得のための「教科に関する科目」のうち「食物学」の「調理実習」にあてることができる。

2）専攻科目（選択分）４単位／101単位

食物栄養学科の専攻科目（選択分）は次の科目です。

○食物栄養学入門	1	Ⅰ	・食物栄養学輪講	4	Ⅳ
・食品評価論	2	Ⅰ～Ⅳ			

3）学部共通科目　４単位

学部共通科目は次の科目です（全て２単位、必修科目以後はアイウエオ順）。必修の２科目（４単位）は、食品衛生管理者および監視員の資格取得で必要な科目です。

◎基礎有機化学	・国際栄養学[*1,2]	・生活科学概論
◎分析化学	・ジェンダー論	・生活造形論
・医療と健康[*1]	・社会保障論	・発達臨床心理学Ⅰ
・応用統計学[*2,3]	・住居学概論[*2]	・比較ジェンダー論
・学校臨床学	・消費者科学入門	・ヒトと文化（1）（2）
・環境衛生学（1）（2）[*2]	・食物学概論[*2]	・保育臨床学
・企業経営論[*1]	・人口学	・民俗学
・建築環境計画論[*2]		

[*1]隔年開講、[*2]家庭科教諭免許取得のための「教科に関する科目」の必修または選択必修科目（[*3]高等学校教諭のみ）

2．教職科目について

1）家庭科教諭免許

家庭科教諭免許（中学・高校教諭１免許状「家庭」）を取得したい人は、１年次から計画的に履修しないと取得できません。「教育職員免許法に関する説明および科目認定一覧表」をよく読んで履修してください。栄養教諭免許を取得せずに家庭科教諭免許のみを取得することはできません。

2）栄養教諭免許

栄養教諭免許（１種）を取得したい人は、１年次から計画的に履修しないと取得できません。「教育職員免許法に関する説明および科目認定一覧表」をよく読んで履修してください。家庭科教諭免許の科目を履修する人は、学校栄養教育論Ⅰ、学校栄養教育論Ⅱ、栄養教育実習、教職実践演習（栄養教諭）を履修することで、栄養教諭の免許が取得できます。

3．資格について

1）栄養士

栄養士の免許は、卒業に必要な科目を修得（履修して単位を取得）すると、取得できます。栄養士免許の取得に必要な教育内容と規定単位数、それに対応した本学の授業科目は表１のとおりです。

2）管理栄養士国家試験受験資格

管理栄養士国家試験の受験資格は、卒業に必要な科目を修得し、栄養士の免許を取得すると、取得できます。国家試験に合格すると管理栄養士免許が得られます。管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な教育内容と規定単位数、それに対応した本学の授業科目は表２のとおりです。

3）食品衛生管理者および食品衛生監視員

食品衛生管理者および食品衛生監視員は、以下のA群からD群までで22単位以上かつE群を含めて40単位以上取得すると得られます（食品微生物学実験と解剖生理学実験は各１単位、他は各２単位）。つまり、これらは卒業単位を取得することで充足されます。食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格は、必要な職種についたとき、その任につくことができる任用資格です。卒業時に、資格取得の証明書は発行されますが、証書等（有料）は申請しない限り発行されません。

専門分野	授業科目	専門分野	授業科目
A群 化学関係	◎基礎有機化学 ◎分析化学 **◎分析化学実験**	E群 関連科目	◎代謝栄養学 ・食物学概論 ◎病態栄養学
B群 生物化学	◎生化学 ◎細胞生化学 ◎食品化学 **◎食品化学実験**		◎調理科学 ・食品評価論 ◎栄養学実験
C群 微生物学	◎食品製造・保存学 ◎食品微生物学 **◎食品微生物学実験** **◎食品製造・保存学実験**		◎解剖生理学Ⅰ ◎解剖生理学Ⅱ ◎食品機能論 ◎臨床医学総論
D群 公衆衛生学	◎食品衛生学 ◎生活環境学 ◎公衆衛生学		◎臨床医学各論Ⅰ ◎臨床医学各論Ⅱ **◎解剖生理学実験**

表１　栄養士免許取得に必要な教育内容と授業科目の対応表　※ 厚生労働省へ変更申請中

教育内容 分野	規定単位数 講義・演習	規定単位数 実験・実習	授業科目名	単位数 講義・演習 必修	講義・演習 選択	実験・実習 必修	実験・実習 選択
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2			
			社会福祉学	2			
			生活環境学	2			
			小計	6	0	0	0
人体の構造と機能	8		生化学	2			
			解剖生理学Ⅰ	2			
			解剖生理学Ⅱ	2			
			臨床医学総論	2			
			細胞生化学	2			
			臨床医学各論Ⅰ	2			
			臨床医学各論Ⅱ	2			
			解剖生理学実験			1	
			小計	14	0	1	0
食品と衛生	6		食品化学	2			
			食品製造・保存学	2			
			食品機能論	2			
			食嗜好評価学	2			
			食品衛生学	2			
			食品微生物学	2			
			食品微生物学実験			1	
			食品製造・保存学実験			2	
			食品化学実験			2	
			小計	12	0	5	0
合計	18	4	合計	32	0	6	0

教育内容 分野	規定単位数 講義・演習	規定単位数 実験・実習	授業科目名	単位数 講義・演習 必修	講義・演習 選択	実験・実習 必修	実験・実習 選択
栄養と健康	8	10	代謝栄養学	2			
			栄養学実験			2	
			ライフステージ栄養学	2			
			ライフスタイル栄養学	2			
			応用栄養学	2			
			応用栄養学実習			1	
			臨床栄養アセスメント学	2			
			臨床栄養療法学	2			
			病態栄養学	2			
			食事療法学	2			
			臨床栄養アセスメント学実習			2	
			食物栄養管理論総合演習Ⅰ	1			
			食物栄養管理論総合演習Ⅱ	1			
			小計	18	0	5	0
栄養の指導	6		公衆栄養学	2			
			栄養疫学・統計	2			
			公衆栄養学実習			1	
			栄養教育論Ⅰ	2			
			栄養教育論Ⅱ	2			
			栄養カウンセリング論	2			
			栄養カウンセリング論実習			1	
			小計	10	0	2	0
給食の運営	4		調理科学	2			
			基礎調理学実習			1	
			応用調理学実習			1	
			調理科学実験			2	
			給食マネジメント論	2			
			給食経営管理論	2			
			給食経営管理実習			2	
			栄養臨地実習Ⅰ			1	
			栄養臨地実習Ⅱ※			3	
			小計	6	0	10	0
合計	18	10	合計	34	0	17	0
総計	36	14	総計	66	0	23	0

※給食の運営に係る校外実習

表２　管理栄養士免許取得に必要な教育内容と授業科目の対応表 ※ 厚生労働省へ変更申請中

教育内容 分野	規定単位数 講義・演習	規定単位数 実験・実習	授業科目名	単位数 講義・演習 必修	講義・演習 選択	実験・実習 必修	実験・実習 選択
専門基礎分野 社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学	2			
			社会福祉学	2			
			生活環境学	2			
			小計	6	0	0	0
人体の構造と機能及び疾病の成立ち	14		生化学	2			
			解剖生理学Ⅰ	2			
			解剖生理学Ⅱ	2			
			臨床医学総論	2			
			細胞生化学	2			
			臨床医学各論Ⅰ	2			
			臨床医学各論Ⅱ	2			
			解剖生理学実験			1	
			小計	14	0	1	0
食べ物と健康	8		食品化学	2			
			食品製造・保存学	2			
			食品機能論	2			
			調理科学	2			
			食嗜好評価学	2			
			食品衛生学	2			
			食品微生物学	2			
			基礎調理学実習			1	
			応用調理学実習			1	
			食品微生物学実験			1	
			調理科学実験			2	
			食品製造・保存学実験			2	
			食品化学実験			2	
			小計	14	0	9	0
合計	28	10	合計	34	0	10	0

教育内容 分野	規定単位数 講義・演習	規定単位数 実験・実習	授業科目名	単位数 講義・演習 必修	講義・演習 選択	実験・実習 必修	実験・実習 選択
専門分野 栄養学基礎	2	8	代謝栄養学	2			
			栄養学実験			2	
			小計	2	0	2	0
応用栄養学	6		ライフステージ栄養学	2			
			ライフスタイル栄養学	2			
			応用栄養学	2			
			応用栄養学実習			1	
			小計	6	0	1	0
栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2			
			栄養教育論Ⅱ	2			
			栄養カウンセリング論	2			
			栄養カウンセリング論実習			1	
			小計	6	0	1	0
臨床栄養学	8		臨床栄養アセスメント学	2			
			臨床栄養療法学	2			
			病態栄養学	2			
			食事療法学	2			
			臨床栄養アセスメント学実習			2	
			小計	8	0	2	0
公衆栄養学	4		公衆栄養学	2			
			栄養疫学・統計	2			
			公衆栄養学実習			1	
			小計	4	0	1	0
給食経営管理論	4		給食マネジメント論	2			
			給食経営管理論	2			
			給食経営管理実習			2	
			小計	4	0	2	0
総合演習	2		食物栄養管理論総合演習Ⅰ	1			
			食物栄養管理論総合演習Ⅱ	1			
			小計	2	0	0	0
臨地実習	-	4	栄養臨地実習Ⅰ			1	
			栄養臨地実習Ⅱ※			3	
			小計	0	0	4	0
合計	32	12	合計	32	0	13	0
総計	60	22	総計	66	0	23	0

※給食の運営に係る校外実習

４．４年間の履修計画（年次毎の注意事項）

１年生は・・・

１．コア科目（30単位以上）をできるだけ１年生で履修する。（別表第３）

① 外国語はひとつの外国語について12単位が必修です。本学科では英語を優先的に履修するよう時間割を組んでいます。

② 情報処理演習(1)(2)（必修）は食物栄養学科対象の「生活Ｃ」を履修してください。

③ スポーツ健康実習は「生活」を履修してください。

２．専攻科目を履修する。

１年生で履修する専攻科目（必修／選択）を履修します。

３．教職を履修する学生は、教職科目をできるだけ履修するよう心掛ける。

教員免許を希望する場合、免許取得に必要な科目をできるだけ履修してください。

１年次からほぼ毎年、学務課から介護等体験及び教育実習に関わる申請を必要とする連絡があります。忘れずに期日までに申請手続き等を行なうこと。３、４年次での介護等体験や教育実習の履修ができなくなる場合があります。

４．履修登録は全て学内パソコンからWeb上で行ないます。履修ガイドを参考に、掲示やOchaメール等で登録期限を確認し、登録し忘れのないようにしてください。時間割は予告なく変更されるため、各自で最新のものをWeb上で確認すること。Web履修登録後は、必ずパソコンから用紙に出力し、確実に登録されているか確認すること。

５．資格取得に関わる科目等には、履修順序のある科目（基礎⇒応用、Ⅰ⇒Ⅱ、講義⇒実習など）があり、原則その順番で履修しなければなりません。また、このような科目全てに、履修しなければならない授業時間数が規定されているので、その時間数を出席した上で試験に合格しないと単位取得はできません。

６．さらに、次のような“学科内規”があります。

・３年次修了時点までに実験・実習は１科目以上、他の科目はコアを含め卒業要件となる科目のうち４科目以上単位を取得していない場合、４年生に進級できません。

２年生は・・・

１．専攻科目を履修する。

２年生で履修する専攻科目（必修／選択）を履修します。

２．教職を履修する学生は、教職科目をできるだけ履修するよう心掛ける。

① 被服製作実習（教職の選択必修）は、食物栄養学科対象の開講時間に履修してください。

② 栄養教諭免許に必要な「学校栄養教育論Ⅰ」、「学校栄養教育論Ⅱ」を履修する。

この科目は隔年開講科目です。２年生の時に開講されていれば、必ず履修してください。２年生の時に開講されていなければ、３年生で履修できます（栄養教諭免許取得希望者のみ）。

３年生は・・・

１．専攻科目を履修する。

３年生で履修する専攻科目（必修／選択）を履修します。

２．栄養教諭免許に必要な「学校栄養教育論Ⅰ」、「学校栄養教育論Ⅱ」を履修する。

この科目は隔年開講科目です。もし、２年生の時に開講されていなければ、３年生で履修します（栄養教諭免許取得希望者のみ）。

３．「栄養臨地実習Ⅰ」、「栄養臨地実習Ⅱ」に関する指導が前期から始まる。

担当教員の授業時間内に重要連絡があるので、欠席厳禁。

臨地実習費として５月頃（ＧＷ明け）６万円前後徴収します。病院施設によっては実習費が値上がりすることがあるため、必要に応じて実習費を追加徴収することがあります。

２年次の１月時点で関連科目の履修見通しが立っていない学生は、３年次の夏から始まる「栄養臨地実習Ⅰ」には行けません。

４．重要：取得単位を確認する（進級に関する学科内規）。

３年生修了時点までに実験・実習は１科目以上、他科目はコアを含め４科目以上単位取得できていない場合には、４年生に進級できません！（要注意）。

５．卒論研究（卒業論文、４年生）を行う研究室を決める。

通常、秋頃より進級可能な学生は卒論研究を行う研究室を決めます。配属先の決定後は、各教員の指示に従って卒論研究の準備を始めます。

６．学外の施設で、「栄養臨地実習Ⅰ」（１単位、保健所）を行う。

４年生は・・・

１．専攻科目を履修する。

４年生で履修する専攻科目（必修／選択）を履修します。

２．卒業論文（６単位）のための卒業研究を行い、卒業論文を作成する。

さらに卒論発表会（H27年１月現在では２月中旬）にて研究成果を口頭発表する。

３．学外の施設で、「栄養臨地実習Ⅱ」（３単位、病院）を行う。

４．教職履修者は、教育実習（出身学校もしくはお茶大附属学校園）を行う。
さらに、教育実習終了後の「教職実践演習」を履修する。

５．大学院進学希望者は、例年８月下旬に実施される大学院入学試験を受ける。
試験は例年２月上旬にもあります。

６．「管理栄養士国家試験」は３月（H27年１月現在では３月下旬、H29年度から３月上旬に変更）に実施されるので受験する。

５．モデル時間割（家庭科教諭免許取得を希望した人の一例）

家庭科教諭免許を４年間で取得したい人の場合を想定し、2016年４月をスタートとして時間割を組んだ一例です。あくまでも、このモデル時間割は**参考例**です。履修登録に関わること（開講科目、シラバス、授業時間割、案内など）は本学Webページ内のお茶大シラバスに掲載されています。各自で履修する科目を決め、Web上の履修登録前に必ずお茶大シラバスにアクセスし、履修登録に関わる変更や隔年開講科目及び集中講義の案内を確認してください。時間割の作成には、１年次だけでなく４年次分の全開講科目の前期・後期の全時間割を確認し、４年間の時間割を作成してください。不明な箇所が生じたら、速やかに学科カリキュラム担当教員、担任、学務課（生活科学部担当）の方に問合わせること。各年次の初めや途中でも、開講科目や時間割が変更することが多々ありますので、まめに、お茶大シラバスにアクセスし確認をしてください。

１年生の４月、まずはこの４年間の**「ＭＹ時間割」**を組んでみて下さい(^−^)。

（注：＊印の生活科学部等向け指定科目は、必ずこの開講時限で受講すること。◎は必修科目）

【１年次・前学期（2016年度）】

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限
月	保育実践論 【教職】	学校カウンセリング(中等) 【◎教職】	生活科学概論 【学共】	児童学概論 【◎教職】	特別活動の研究(中等)【◎教職】
火	第２外国語Ⅰ＊ 【コア】		ｽﾎﾟｰﾂ健康実習＊ 【◎ｺｱ・教職】	家族関係論 【◎教職】	基礎有機化学 【◎学共】
水	教職概論 【◎教職】	生徒指導の研究（中等） 【◎教職】		情報処理演習＊ 【◎ｺｱ・教職】	
木	基礎英語Ⅰ＊ 【◎コア】	食物栄養学入門（３限） 【専攻選択】	解剖生理学Ⅰ 【◎専攻】	医療と健康 【学共】	
金	第２外国語（演習）Ⅰ 【コア】	教育方法論 【◎教職】			

・前期集中：家庭看護学 【◎教職】、家庭機械・家庭電気【◎教職】（高校のみ）

・隔年開講：医療と健康【学共】

【１年次・後学期（2016年度）】

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限
月	道徳教育の研究(中等) 【◎教職】	教育原論（社会・制度） 【◎教職】	家政経済学概論 【◎教職】	住居学概論 【◎教職】	法学Ⅰ 【コア・◎教職】
火	第２外国語Ⅱ＊ 【コア】		ｽﾎﾟｰﾂ健康実習＊ 【◎コア・教職】	食物学概論 【◎教職・学共】	生化学 【◎専攻】
水	教育原論(思想・歴史) 【◎教職】				
木	基礎英語Ⅱ＊ 【◎コア】		解剖生理学Ⅱ 【◎専攻】	被服学概論 【◎教職】	調理科学 【◎専攻】
金	第２外国語（演習）Ⅱ＊ 【コア】		基礎調理学実習【◎専攻・教職】		

【２年次・前学期（2017年度）】

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限
月	教育心理 【◎教職】		応用調理学実習 【◎専攻】		
火	臨床医学総論 【◎専攻】	食品化学 【◎専攻】	栄養教育論Ⅰ 【◎専攻】		
水	代謝栄養学 【◎専攻】	被服製作実習＊ 【◎教職】			
木	中級英語Ⅰ＊（成績別） 【◎コア】	発展第２外国語Ⅰ＊ 【コア】	食嗜好評価学 【◎専攻】		
金	臨床医学各論Ⅰ 【◎専攻】			国際栄養学【学共・教職選択】	

・隔年開講：国際栄養学【学共・教職選択】

・前期集中：学校栄養教育論Ⅰ【◎栄養教諭】（隔年開講）

【２年次・後学期（2017年度）】

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限	11/12限
月	栄養カウンセリング論 【◎専攻】	細胞生化学 【◎専攻】	社会福祉学（実施） 【◎専攻】	給食経営管理論 【◎専攻】	教育課程論【◎教職】	社会福祉学（登録）
火	応用栄養学 【◎専攻】	臨床栄養アセスメント学【◎専攻】	食品微生物学実験 ／ 解剖生理学実験【◎専攻】			
水	臨床医学各論Ⅱ 【◎専攻】					
木	中級英語Ⅱ＊（成績別） 【◎コア】	発展第２外国語Ⅱ＊ 【コア】	分析化学実験【◎専攻】			
金		分析化学 【◎学共】	食品製造・保存学 【◎専攻】	食品微生物学【◎専攻】	生活環境学【◎専攻】	

・後期集中：学校栄養教育論Ⅱ【◎栄養教諭】（隔年開講）

【３年次・前学期（2018年度）】

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限
月	栄養教育論Ⅱ 【◎専攻】	食品衛生学 【◎専攻】	３年学生実験 【◎専攻】		
火	病態栄養学 【◎専攻】	臨床栄養療法学 【◎専攻】	３年学生実験 【◎専攻】		
水	食物栄養管理総合演習Ⅰ（1限）【◎専攻】	公衆衛生学 【◎専攻】	３年学生実験 【◎専攻】		
木	公衆栄養学 【◎専攻】	給食マネジメント論 【◎専攻】	３年学生実験 【◎専攻】		
金	家庭科教育法Ⅰ 【◎教職】	ライフステージ栄養学 【◎専攻】	３年学生実験 【◎専攻】		

・「３年学生実験」に含まれる科目：栄養学実験、食品製造・保存学実験、食品化学実験、応用栄養学実習

・通年不定期：介護等体験（中学・家庭科）【◎教職】

【３年次・後学期（2018年度）】

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限
月	ライフスタイル栄養学 【◎専攻】	栄養行政学 【◎専攻】	臨床栄養アセスメント学実習【◎専攻】		
火	給食経営管理実習【◎専攻】				
水	食物栄養管理総合演習Ⅰ（1限）【◎専攻】				
木		食品機能論 【◎専攻】	調理科学実験【◎専攻】		
金	家庭科教育法Ⅱ 【◎教職】	食事療法学 【◎専攻】	公衆栄養学実習 ／ 栄養カウンセリング論実習【◎専攻】		

・通年不定期：介護等体験（中学・家庭科）【◎教職】、栄養臨地実習Ⅰ【◎専攻】（保健所１週間）

３年生修了時点までに実験・実習は１科目以上、他の科目はコアを含め卒業要件となる科目のうち４科目以上単位を取得していない場合、４年生に進級できません！（要注意）。

【４年次・前学期（2019年度）】※基本、毎日研究室で卒論研究！

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限
月	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】
火	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】
水	食物栄養管理総合演習Ⅱ（1限）【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】
木	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】
金		卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】

・通年不定期：教育実習（家庭科）、栄養教育実習（栄養教諭）【教職】、栄養臨地実習Ⅱ【◎専攻】（病院３週間）
・通年：食物栄養学輪講（研究室ごとに時間割を決定）【専攻選択】

【４年次・後学期（2019年年度）】※基本、毎日研究室で卒論研究！

	1/2限	3/4限	5/6限	7/8限	9/10限
月	卒論研究【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】
火	卒論研究【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】
水	食物栄養管理総合演習Ⅱ（1限）【◎専攻】	教職実践演習（家庭科）【◎教職】	教職実践演習（栄養教諭）【◎教職】		卒論研究 【◎専攻】
木	卒論研究【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】
金	卒論研究【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】	卒論研究 【◎専攻】

★通常、２月中旬に行われる「卒論論文発表会」をパスし、全必修科目を含む138単位以上を履修完了できれば、晴れて卒業が確定（まずは**栄養士**ＧＥＴ）！(^0^)／・・・そして、**「管理栄養士国家試験」を受験**して、合格すると国家資格の「**管理栄養士免許**」（＝**真の卒業証書** ^0^）を手にすることができる。＼(^0^)／

６．カリキュラムの構成

（講義／演習→実験／実習のアイウエオ順、実験／実習は**太字**）

	必修及び選択必修の科目				自由に選択して履修する科目
	専攻科目（101単位）		学部共通科目	コア科目	
	必修分：97単位	選択分：４単位以上	４単位	30単位	３単位
１年生	◎解剖生理学Ⅰ(2) ◎解剖生理学Ⅱ(2) ◎生化学(2) ◎調理科学(2) ◎**基礎調理学実習**(1)		◎基礎有機化学(2) ・生活科学概論(2) ・医療と健康(2) ・食物学概論(2)	◎情報処理演習(2) （生活Ｃ） ◎**スポーツ健康実習**(2) （生活）	・基礎化学Ａ(2) （全学共通科目）
２年生	◎栄養カウンセリング論(2) ◎栄養教育論Ⅰ(2) ◎応用栄養学(2) ◎給食経営管理論(2) ◎細胞生化学(2) ◎生活環境学(2) ◎社会福祉学(2) ◎食嗜好評価学(2) ◎食品化学(2) ◎食品製造・保存学(2) ◎食品微生物学(2) ◎代謝栄養学(2) ◎臨床医学各論Ⅰ(2) ◎臨床医学各論Ⅱ(2) ◎臨床医学総論(2) ◎臨床栄養アセスメント学(2) ◎**応用調理学実習**(1) ◎**解剖生理学実験**(1) ◎**食品微生物学実験**(1) ◎**分析化学実験**(2)		◎分析化学(2) ・国際栄養学(2)		○食物栄養学入門(1)
３年生	◎栄養教育論Ⅱ(2) ◎栄養疫学・統計(2) ◎給食マネジメント論(2) ◎公衆衛生学(2) ◎公衆栄養学(2) ◎食事療法学(2) ◎食品衛生学(2) ◎食品機能論(2) ◎病態栄養学(2) ◎ライフステージ栄養学(2) ◎ライフスタイル栄養学(2) ◎臨床栄養療法学(2) ◎**応用栄養学実習**(1) ◎**栄養カウンセリング論実習**(1) ◎**栄養学実験**(2) ◎**給食経営管理実習**(2) ◎**公衆栄養学実習**(1) ◎**食品化学実験**(2) ◎**食品製造・保存学実験**(2) ◎**調理科学実験**(2) ◎**臨床栄養アセスメント学実習**(2) ◎食物栄養管理論総合演習Ⅰ(1) ◎**栄養臨地実習Ⅰ**(1)				
４年生	◎食物栄養管理論総合演習Ⅱ(1) ◎**栄養臨地実習Ⅱ**(3) ◎卒業論文(6)	・食物栄養学輪講(4)			

※表中の（　）内の数字は単位数
◎は必修科目、○は学科推奨科目

栄養教諭一種免許状を取得するための手引き

生活科学部食物栄養学科に所属する学生は、栄養教諭１種免許状を取得することができます。

※本稿はあくまでも学生の皆さんの便宜のための「手引き」です。大学より配布される「教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表」および「履修ガイド」の中の「教育免許状」の項が、大学の正規の説明です。これらを必ず熟読してください。

※新入生オリエンテーションにおける、教職についての説明をよく聞いてください。

１．基礎資格および最低修得単位数

教育職員免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数	
		教職に関する科目	栄養に関わる教育に関する科目
栄養教諭１種	学士の学位を有すること、かつ管理栄養士の免許を受けていること又は指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、栄養士の免許を受けていること	18単位	４単位

２．教職に関する科目

教職に関する科目（栄養教育実習を除く）は、他の免許状を取得するための教職に関する科目と共通のものです。履修に関する注意事項が次頁にあるので、必ず参照してください。

科目／必要単位数	認定科目と単位	
教職の意義等に関する科目／２単位	教職概論（中等）(1)(2)	2
教育の基礎理論に関する科目／６単位（免許法では４単位）	教育原論（思想・歴史）(1)(2)	2
	教育心理	2
	教育原論（社会・制度）(1)(2)	2
教育課程に関する科目／８単位（免許法では４単位）	教育課程論	2
	道徳教育の研究（中等）	2
	特別活動の研究（中等）	2
	教育方法論	2
生徒指導及び教育相談に関する科目／４単位	生徒指導の研究（中等）(1)(2)	2
	学校カウンセリング（中等）	2
栄養教育実習／２単位	栄養教育実習	2
教職実践演習／２単位	教職実践演習（栄養教諭）	2

注）栄養教諭に関して、教育職員免許法では「教育の基礎理論に関する科目」および「教育課程に関する科目」の必要単位数がそれぞれ４単位ずつとなっているが、「各項目に含めることが必要な事項」を全て網羅する必要があるので、本学では「教育の基礎理論に関する科目」６単位、「教育課程に関する科目」８単位をそれぞれ修得する必要がある。つまり、表に記されている全ての科目を履修する必要がある。

３．栄養に関わる教育に関する科目

履修年次は２年生と３年生です。隔年開講のため、開講している年に履修してください。

認定科目と単位	
学校栄養教育論Ⅰ	2
学校栄養教育論Ⅱ	2

４．教科・教職以外の科目

教員免許状の取得には、教職関係の科目以外に、以下の単位修得が必要です。

科目／必要単位数	認定科目と単位		
日本国憲法／２単位	法学Ⅰ（日本国憲法）	コア科目	2
体育／２単位	スポーツ健康実習	コア科目	2
外国語コミュニケーション／４単位	中級英語Ⅰ(1)(2) 中級英語Ⅱ(1)(2) 基礎ドイツ語Ⅲ 基礎ドイツ語Ⅳ 基礎フランス語Ⅲ 基礎フランス語Ⅳ 基礎中国語Ⅲ 基礎中国語Ⅳ	コア科目	各２
情報機器の操作／２単位	情報処理演習(1)(2)	コア科目	2

５．履修に関する注意事項

１）取得希望者は、１年生から計画的に履修しないと資格を取得できません。

２）学校栄養教育論Ⅰと学校栄養教育論Ⅱの履修年次は２年生と３年生です。隔年開講ですので、２年生の時に開講されている場合、２年生のうちに履修しないと取得できません。

３）学校栄養教育論Ⅱは、学校栄養教育論Ⅰを取得していないと受けられません。また、栄養教育実習は学校栄養教育論Ⅰと学校栄養教育論Ⅱを取得していないと受けられません。計画的に履修してください。

４）**教職に関する全学の事前事後指導を必ず受けてください。**栄養教諭１種免許状取得希望者は、教職課程全般に関する説明会と、小学校の教育実習に関する説明会に参加しなければなりません。「教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表」の**教職課程履修スケジュール**をよく読むこと。

５）栄養教諭１種免許状のみを取得希望する者には、介護等体験は必要ありません。

６）栄養教育実習（４年次・後学期）の後に履修する教職実践演習は、「教職実践演習（栄養教諭）」を履修すること。

5．人間･環境科学科　人間･環境科学プログラム

４年間で学ぶ授業科目は、学生便覧の生活科学部履修規程に掲載されています。卒業までに必要な単位は最低124単位です。124単位以上を下記の履修表にしたがって、履修しなければなりません。

履修ガイドの生活科学部履修規程、別表第１－１を参照（人間・環境科学科の欄のみ抜粋した表）

必修及び選択必修の科目・単位							自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数
コア科目					専門教育科目（必修プログラム）											
文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム		強化プログラム	学際プログラム	コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
		2以上	12以上	2以上	必修34	選択26												
34					60		20		10									124

コア科目：文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語及び朝鮮語）、スポーツ健康とする。

専攻科目：各学科において設置する科目とする。

自由科目：生活科学部の他学科の科目とする。

次ページからの授業科目の記号は以下のとおりです。

◎：必修科目。これを落とすと卒業できない。

○：選択科目

●：建築士受験資格関連科目

次ページからの記載要領は以下のとおりです。

人間環境科学演習	2	(Ⅲ)
↑	↑	↑
科目名	単位数	標準履修年次

注）学科の主プログラム、強化プログラム以外の科目の標準履修年次については、履修ガイドやシラバス、開講科目内容にて各自確認してください。標準履修年次に履修しないと、時間割、隔年開講などの関係で履修計画が効率的に進まない可能性があるので注意すること。

注）科目によっては、他の科目の単位を修得していることが履修の条件となっていることがあります。詳細は、シラバスを確認してください。

１．主プログラム（必修）　34単位

◎基礎有機化学　２（Ⅰ）
◎物理化学　２（Ⅱ）
◎人間環境科学演習　２（Ⅲ）
◎人間環境科学実験実習Ⅲ　２（Ⅲ）
◎卒業論文　10（Ⅳ）
◎数学物理学演習Ⅰ　２（Ⅰ）
◎環境科学　２（Ⅱ）
◎●人間環境科学実験実習Ⅰ　２（Ⅲ）
◎人間環境科学輪講Ⅰ　２（Ⅳ）
◎統計学　２（Ⅱ）
◎情報工学演習　２（Ⅲ）
◎●人間環境科学実験実習Ⅱ２（Ⅲ）
◎人間環境科学輪講Ⅱ　２（Ⅳ）

注）４年生として卒業研究を開始するためには、「◎人間環境科学輪講Ⅰ」、「◎人間環境科学輪講Ⅱ」「◎卒業論文」を除いて、すべての主プログラム必修単位（20単位）を修得しておく必要があります。この条件を満たしていない場合、原則として卒業論文のための研究を開始することはできません。主プログラムの必修単位のみならず、主プログラムの必要単位（４年次科目を除いて46単位以上）、コア科目の必要単位（34単位以上）、強化プログラムの必要単位（20単位以上）を卒業論文開始までに修得しておくことを強く望みます。

２．主プログラム（選択）　26単位以上

○数学物理学演習Ⅱ　２（Ⅰ）
○機械と運動　２（Ⅰ・Ⅱ）隔年
○反応工学論　２（Ⅱ）
○ヒトと文化　２（Ⅰ～Ⅳ）
○応用統計学　２（Ⅱ）
○●住居学概論　２（Ⅰ）
○●設計製図基礎　２（Ⅰ）
○デザイン工学演習　２（Ⅰ・Ⅱ）隔年
○デザインとテクノロジ　２（Ⅰ・Ⅱ）隔年
○計測工学　２（Ⅱ・Ⅲ）
○人体計測学演習　４（Ⅱ）
○●建築一般構造　２（Ⅰ）
○●建築環境計画論　２（Ⅱ）
○生活科学概論　２（Ⅰ）
○設計製造演習　２（Ⅰ・Ⅱ）隔年
○生物化学　２（Ⅱ）
○●環境生理学　２（Ⅱ）
○機器分析演習　２（Ⅱ）
○●基礎構造力学　２（Ⅰ・Ⅱ）隔年
○●西洋建築史　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年
○資源循環工学　２（Ⅱ）

注）隔年開講について：隔年と記された科目は隔年開講です。開講される年にできるだけ早めに履修してください。

３．強化プログラム（選択）　20単位以上

学生は、２年次終了時までに二つ目の専門教育科目（必修プログラム）を選択（申請・登録）することになります。人間・環境科学科の学生は、二つ目の専門教育科目（必修プログラム）として、人間・環境科学科の強化プログラムか、もしくは学際プログラム「消費者学」のいずれかを選択してください。ここでは、人間・環境科学科の専門性を高めるために、理系である本学科の強化プログラムを選択した場合の履修要件について説明します。本学科の強化プログラムでは、以下の科目の中から20単位以上を修得することが必要です。建築士受験資格取得希望者は、●印の科目を履修してください。「消費者学」については　８学際プログラム　を参照。

○人間工学　２（Ⅱ・Ⅲ）
○水環境工学　２（Ⅲ）
○●都市エネルギー工学　２（Ⅲ）
○環境衛生学　２（Ⅱ）
○●建築施設計画　２（Ⅲ）
○都市計画論　２（Ⅲ）
○人間環境科学特別実習Ⅰ　２（Ⅲ）
○電子工学　２（Ⅲ）
○環境評価学　２（Ⅲ）
○医用工学　２（Ⅲ）
○●建築環境工学　２（Ⅱ）
○●建築構造力学　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年
○●建築設計製図演習Ⅰ　２（Ⅱ）
○●人間環境科学特別実習Ⅱ　２（Ⅲ）
○●システム工学　２（Ⅲ）
○環境材料物性　２（Ⅲ）
○数学物理学演習Ⅲ　２（Ⅱ）
○●建築材料学Ⅰ　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年
○日本建築史　２（Ⅰ～Ⅳ）隔年
○ＬＩＤＥＥ演習　２（Ⅰ～Ⅳ）不定期

注）「○人間環境科学特別実習Ⅰ」と「○●人間環境科学特別実習Ⅱ」はいずれもインターンシップで、一方しか履修できません。建築士受験資格取得希望者は、「○●人間環境科学特別実習Ⅱ」を選択してください。
注）「○●建築設計製図演習Ⅰ」は、「○●設計製図基礎」の単位を修得していることが履修条件となります。
注）「○●建築構造力学」は、「○●基礎構造力学」の単位を修得していることが履修条件となります。

4．強化プログラム（建築士受験資格に関する科目）

２つめの必修プログラムとして強化プログラムを選択した場合は「３．強化プログラム（選択）」に記載された科目から20単位以上取得することが必須です。しかし以下に示す強化プログラム（建築士受験資格に関する科目）は、この20単位には含まれませんので注意してください（卒業に必要な履修単位数には含まれます）。ただし、建築士受験資格取得には必要になる科目ですので、受験資格取得希望者は注意して履修してください。詳細は、「５．建築士受験資格に関する科目」を参照。

●建築設計製図演習Ⅱ　２（Ⅱ）
●建築生産　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年
●建築設備学　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年
●環境デザイン論　２（Ⅰ～Ⅳ）隔年※
●建築設計製図演習Ⅲ　２（Ⅲ）
●建築構法計画　１（Ⅱ・Ⅲ）隔年
●建築意匠論　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年
（●環境心理学　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年建築士受験資格科目追加申請予定）
●建築法規　１（Ⅱ・Ⅲ）隔年
●建築材料学Ⅱ　２（Ⅱ・Ⅲ）隔年
●測量学　２（Ⅰ～Ⅳ）隔年※

注）※印は他学部、他学科が開講担当している科目です。開講年度、開講時期に注意し、とれる学年で早めに履修しておきましょう。
注）隔年開講の科目が多くあります。時間割や開講科目に記載されていない場合もありますので、注意が必要です。

5．建築士受験資格に関する科目

当学科では、「一級建築士」「二級建築士ならびに木造建築士」の受験資格を得るための科目が設定されています。建築士受験資格に関する科目を指定された単位以上取得する必要があります。あくまで取得できるのは、建築士試験の受験資格です。建築士の資格を得るためには、必要科目の単位を修得して卒業した後、必要な建築に関する実務を経験した上で、建築士試験を受験し合格しなければなりません。必要科目の単位数修得条件が満たされない場合は、受験資格が認められません。

一級建築士受験資格のための単位修得条件、必要単位、必要実務経験については、以下の「建築士受験資格取得のための履修科目（一級建築士受験資格）」の表を参照して下さい。なお、二級建築士受験資格を含む詳細については、「履修ガイド」の諸資格の取得、建築士受験資格のページを参照してください。

建築士受験資格取得のための履修科目（一級建築士受験資格）
二級建築士受験資格については、「履修ガイド」を参照のこと

一級建築士受験資格に関する指定科目の分類	単位取得条件	本学における開講科目名	単位数
①建築設計製図	7単位以上	設計製図基礎（主○）	2
		建築設計製図演習Ⅰ（強○）	2
		建築設計製図演習Ⅱ（強●）	2
		建築設計製図演習Ⅲ（強●）	2
②建築計画	7単位以上	住居学概論（主○）	2
		建築環境計画論（主○）	2
		西洋建築史（主○）	2
		建築意匠論（強●）	2
		建築施設計画（強○）	2
③建築環境工学	2単位以上	建築環境工学（強○）	2
		知覚認知と環境デザイン（◇）	2
④建築設備	2単位以上	建築設備学（強●）	2
⑤構造力学	4単位以上	基礎構造力学（主○）	2
		建築構造力学（強○）	2
		システム工学（強○）	2
⑥建築一般構造	3単位以上	建築一般構造（主○）	2
		建築構法計画（強●）	1
⑦建築材料	2単位以上	建築材料学Ⅰ（強○）	2
		建築材料学Ⅱ（強●）	2
		人間環境科学実験実習Ⅰ（主◎）	2
⑧建築生産	2単位以上	建築生産（強●）	2
⑨建築法規	1単位以上	建築法規（強●）	1
⑩その他	適宜	都市エネルギー工学（強○）	2
		環境生理学（主○）	2
		人間環境科学実験実習Ⅱ（主◎）	2
		人間環境科学特別実習Ⅱ（強○）	2
		環境デザイン論（他学科）	2
		測量学（他学部）	2
建築に関する科目の総単位数（①～⑩の単位数合計）	50単位以上（必要実務経験３年）		54
	40単位以上（必要実務経験４年）		

主◎：主プログラム必修
主○：主プログラム選択
強○：強化プログラム（選択）
強●：強化プログラム（建築）
◇：コア科目（LA科目、基礎講義、語学など）

４年間の履修計画

１年生は・・・

(1)　コア科目を履修する

①　第一外国語を履修しなければなりません。英語、ドイツ語、フランス語、中国語から１カ国語12単位が必修となります。英語が一般的です。

②　ドイツ語、フランス語、中国語などの第二外国語も履修することができます。

③　「◎情報処理演習（生活Ｄ）」はコア科目の必修です。履修してください。

④　「◎スポーツ健康実習」はコア科目の必修です。履修してください。

⑤　文理融合リベラルアーツ（ＬＡ科目）は、共通テーマによってグループ分けされています。同一科目群から決められた科目数を履修すると、履修証明書が発行されます。毎年、開講される科目が変わりますので、開講科目（授業時間割）の冊子に注意して履修計画をたててください。

(2)　主プログラムの必修科目を履修する

必修の「◎基礎有機化学」「◎数学物理学演習Ⅰ」を履修します。

(3)　主プログラムの選択科目を履修する

専門の基礎となる科目です。「○デザインとテクノロジ」「○デザイン工学演習」「○数学物理学演習Ⅱ」「○ヒトと文化」「○●建築一般構造」「○●住居学概論」「○●設計製図基礎」「○生活科学概論」を積極的に履修してください。

(4)　文理融合リベラルアーツ科目（ＬＡ科目）を履修する

ＬＡ科目や基礎講義などのコア科目は、１年生向けに多く開講されています。興味のある科目を履修してください。（人間・環境科学科の教員が担当する科目としては、「生物人類学」、「●知覚認知と環境デザイン（偶数年度開講、２年次履修）」「水の安全保障（偶数年度開講、２年次履修）」があります。）２年生、３年生になると、専門教育科目が増えてきます。できるだけ１年生のうちに、履修できるコア科目の単位を修得しておいてください。ＬＡ科目は隔年開講が多いので、開講年度に注意してください。

(5)　学部共通科目、その他の科目

学部共通科目は１年生向けの科目が多く設定されています。また、「一般物理学実験」や「一般化学実験」などは、３年次以降の履修に大いに助けになります。物理や生物に自信の無い方は、「物理学サプリメント」や「生物学サプリメント」の履修をするのも良いでしょう。

２年生は・・・

本学科では、２年次終了時に二つ目の選択プログラムとして、人間・環境科学科の強化プログラムか、消費者学の学際プログラムのいずれかを選択します。人間・環境科学科の学生は、人間・環境科学科の強化プログラムを選択することが標準的です。２年次１月頃に各自選択するプログラムを登録する必要がありますので、手続きを忘れないよう注意してください。

消費者学の学際プログラムを選択する場合は、カリキュラム委員や学年担当の教員に相談してください。また、複数プログラム選択履修制度、ＧＰＡ制度、その他の学修全般に関する相談窓口として総合学修支援センターが設置されています。こちらのほうも有効に活用してください。

(1)　主プログラムの必修科目を履修する

必修の「◎統計学」「◎物理化学」「◎環境科学」を履修します。

(2)　その他、科目を履修する

「履修ガイド」、ならびに本「履修の手引き」のモデル時間割を参照に、主プログラム、選択する強化プログラムの科目を履修してください。特に隔年開講の科目も多くありますので、計画的に履修することを心がけてください。

３年生は・・・

(1)　科目を履修する

主プログラム、強化プログラムともに専門的な科目が増えてきます。卒業論文につながる重要な科目が多くなりますのでしっかり履修してください。「履修ガイド」ならびに本「履修の手引き」のモデル時間割を参照に、主プログラム、選択する強化プログラムの科目を履修してください。

「◎●人間環境科学実験実習Ⅰ」「◎●人間環境科学実験実習Ⅱ」「◎人間環境科学実験実習Ⅲ」の必修科目を履修してください。前期火曜、木曜、金曜の午後に授業が設定されていますが、三科目一体として時間割が組まれます。別々にとることはできませんので注意してください。「◎人間環境科学演習」「◎情報工学演習」も必修です。必ず履修してください。

注）「○人間環境科学特別実習Ⅰ」ならびに「○●人間環境科学特別実習Ⅱ」は、インターンシップをおこなう科目です。夏期休暇中約２週間の学外実習（企業等での就業研修）をおこないます。その年によって実習先が異なりますので、アナウンスに注意してください。いずれか一方の科目しか履修できません。

(2)　三つ目の選択プログラムの履修にチャレンジする

大学の授業に慣れ、順調に主プログラム、強化プログラムの履修が進んでいるのであれば、２年次終了以降、三つ目の選択プログラムにチャレンジすることも考えられます。自分の興味に応じて多様なプログラム群から選択することができます。ただし、三つ目の選択プログラムの履修に際しては、主プログラムや強化プログラムの履修がおろそかにならないよう、カリキュラム委員や学年担当の教員と十分相談の上、履修計画を立てましょう。

(3)　単位の確認をする

４年次に卒業研究を開始するためには、「◎人間環境科学輪講Ⅰ」「◎人間環境科学輪講Ⅱ」「◎卒業論文」を除いて、卒業に必要な必修単位を全て満たしておく必要があります。満たしていない場合、原則として卒業論文のための研究を開始することはできません（少なくとも半年間、卒業が遅れます）。

(4)　卒業論文のための研究室配属

卒業論文に取り組むために、学生は４年生進学時に研究室に配属されます。３年次の後期に、研究室配属が決定されます。本学科には、自然人類学研究室、材料物性研究室、人間工学研究室、環境工学研究室、環境評価学研究室、建築設計学研究室、居住環境学研究室、建築環境計画学研究室の8つの研究室があります。ただし、教員の異動などのため、４年生進学時にこれらの研究室があるかどうかはわかりません。また新たな研究室ができる可能性もあります。

配属学生数に定員を設けています。第一志望の研究室に配属されるとは限りません。研究分野を一つにしぼらず、複数の研究分野を考慮に入れて学んでおきましょう。広い分野を学ぶことは、人間・環境科学科の目指すところでもあります。なお、研究室配属に際してＧＰＡを利用することもありますので、しっかりと勉強しておいてください。

参考までに、各研究室の専門分野に深く関わる専門科目をあげておきます。その研究分野に配属希望の学生は、履修してください。

自然人類学研究室　「○ヒトと文化」「○人体計測学演習」「ＬＡ生命と環境４：生物人類学」
材料物性研究室　「◎物理化学」「○機器分析演習」「○環境材料物性」
人間工学研究室　「○人間工学」「○計測工学」「○医用工学」「○●システム工学」
環境工学研究室　「○反応工学論」「○水環境工学」「○環境衛生学」
「ＬＡ生活世界の安全保障９：水の安全保障」
環境評価学研究室　「○水環境工学」「○環境衛生学」「○資源循環工学」「○環境評価学」
「○●都市エネルギー工学」
建築設計学研究室　「○●建築一般構造」「○●西洋建築史」
「○●建築設計製図演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」
居住環境学研究室　「○●建築環境計画論」「○●建築施設計画」
「○●建築設計製図演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」
建築環境計画学研究室「○●建築環境工学」「●環境生理学」「○●建築設計製図演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」
「●ＬＡ色・音・香10：知覚認知と環境デザイン」

４年生は・・・

(1)　卒業論文を書く

主プログラムの「◎卒業論文」10単位を履修し、論文を完成させます。また卒論指導を中心とした「◎人間環境科学輪講Ⅰ」「◎人間環境科学輪講Ⅱ」（ともに主プログラム）を履修します。11月に中間発表会、２月の中旬に卒業論文発表会があります。単位の修得には、全員に卒業論文の提出と発表が義務づけられています。

注）「◎卒業論文」は、それまで学んできたことを総合し、個別の研究に取り組む、学部生の最重要の科目です。卒業論文に集中して取り組めるよう、また専門知識を活かすことができるよう、４年次までに、「◎人間環境科学輪講Ⅰ」「◎人間環境科学輪講Ⅱ」「◎卒業論文」を除いたすべての主プログラム必修単位（24単位）を修得しておく必要があります。また主プログラムの必修単位のみならず、主プログラムの必要単位（４年次科目を除いて46単位以上）、コア科目の必要単位（34単位以上）、強化プログラムの必要単位（20単位以上）を「◎卒業論文」開始までに修得しておくことを強く望みます。

カリキュラムの構成

◎　必修科目
○　選択科目
●　建築士受験資格関連科目

		１　年（2016年度）	２　年（2017年度）	３　年（2018年度）	４　年（2019年度）
専門教育科目 必修プログラム	主プログラム（必修）	◎　基礎有機化学 ◎　数学物理学演習Ⅰ	◎　環境科学 ◎　統計学 ◎　物理化学	◎　情報工学演習 ◎　人間環境科学演習 ◎●人間環境科学実験実習Ⅰ ◎●人間環境科学実験実習Ⅱ ◎　人間環境科学実験実習Ⅲ	◎　人間環境科学輪講Ⅰ ◎　人間環境科学輪講Ⅱ ◎　卒業論文
	主プログラム（選択）	○　数学物理学演習Ⅱ ○　デザイン工学演習 ○　デザインとテクノロジ※ ○　ヒトと文化 ○●　建築一般構造 ○●　住居学概論 ○　生活科学概論 ○●　設計製図基礎	○　生物化学 ○　設計製造演習 ○　機械と運動※ ○　反応工学論 ○●環境生理学 ○　人体計測学演習 ○　機器分析演習 ○　応用統計学 ○●建築環境計画論 ○●基礎構造力学※	○●西洋建築史※ ○　計測工学	
	強化プログラム（選択）		○　人間工学 ○　数学物理学演習Ⅲ ○　環境衛生学 ○●建築環境工学 ○●建築設計製図演習Ⅰ	○　電子工学 ○●都市エネルギー工学 ○　環境材料物性 ○　医用工学 ○●建築構造力学※ ○●システム工学 ○●建築材料学Ⅰ※ ○　水環境工学 ○　環境評価学 ○●建築施設計画 ○●都市計画論※ ○　人間環境科学特別講義 ○　人間環境科学特別実習Ⅰ ○●人間環境科学特別実習Ⅱ	
	強化プログラム（建築）		●　建築設計製図演習Ⅱ ●　建築生産※ ●　建築材料学Ⅱ※ ●　建築設備学※ ●　建築意匠論※	●　建築設計製図演習Ⅲ ●　日本建築史※ ●　建築法規※ ●　建築構法計画※ ●　環境デザイン論※ ●　環境心理学※ ●　測量学※	
コア科目（ＬＡ、基礎講義、外国語など）の例		◎スポーツ健康実習 ◎情報処理演習（生活Ｄ） ◎　外国語 安全管理概論 生物人類学	◎　外国語 一般物理学実験 一般化学実験 ●　知覚認知と環境デザイン※ 水の安全保障※		
自由選択科目					

注）※は、隔年開講の科目を示す。

モデル時間割

平成28年度入学生履修計画時間割

2016年度 1年生前期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	基礎有機化学 打田 (主◎)	LA科目 ◇	生活科学概論 (主○)		
火	語学(独仏中) ◇◆		スポーツ 健康実習 ◎◇		デザインとテクノロジ(隔年) 太田 (主○)
水	ヒトと文化 松浦 (主○)		語学初級Ⅰ (応用) ◇	語学(英語) ◇◆	
木	語学(英語) ◇◆	数学物理学演習Ⅰ 太田・小崎 (主◎)		情報処理 演習 生活D ◎	
金	語学(独仏中) ◇◆			サプリメント (物理/生物)	

2016年度 1年生後期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月		数学物理学演習Ⅱ 元岡・長澤 (主○)		住居学概論 長澤・横山 (主○)●	
火	語学(独仏中) ◇◆		スポーツ 健康実習 ◎◇		
水	生物人類学 松浦・近藤 ◇	建築一般構造 元岡 (主○)●	語学初級Ⅱ (応用) ◇	語学(英語) ◇◆	
木	語学(英語) ◇◆				
金	語学(独仏中) ◇◆		デザイン工学演習 太田・元岡・長澤 (主○)		設計製図基礎 長澤・鍋野 (主○)●

2017年度 2年生前期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	人体計測学演習 近藤 (主○)		生物化学 仲西 (主○)		
火	環境科学 近藤 (主◎)	建築環境計画論 長澤 (主○)●	設計製造演習 太田・元岡・長澤 (主○)		機械と運動 (隔年)太田 (主○)
水	建築環境工学 小崎 (強○)●	水の安全保障 (隔年)大瀧 ◇	語学(英語) ◇◆	建築生産 (隔年)河野 ●	
木	語学(英語) ◇◆	語学(独仏中) ◇◆		建築設計製図演習Ⅰ 小崎・伊藤 (強○)●	
金	数学物理学演習Ⅲ 大瀧・中久保 (強○)				

2017年度 2年生後期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	知覚認知と環境デザイン(隔年) 松田 ◇●	応用統計学 岩崎 (主○)	機器分析演習 仲西 (主○)		
火	環境生理学 小崎 (主○)●	基礎構造力学 (隔年)小山 (主○)●	計測工学 TRIPETTE (主○)	環境衛生学 大瀧 (強○)	
水	反応工学論 大瀧 (主○)	資源循環工学 中久保 (主○)	語学(英語) ◇◆	統計学 土 (主◎)	
木	語学(英語) ◇◆	語学(独仏中) ◇◆	建築意匠論 (隔年)元岡 ●	建築材料学Ⅱ (隔年)兼松 ●	建築設計製図演習Ⅱ 元岡・高橋彰●
金	建築設備学 (隔年)三上 ●	物理化学 仲西 (主◎)			

前期集中
測量学(隔年開講) ●

2018年度 3年生前期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	水環境工学(1学期)大瀧(強○) 環境評価学(2学期)中久保(強○)		人間工学 TRIPETTE (強○)		
火		環境材料物性 仲西 (強○)	人間・環境科学実験実習Ⅰ 全教員 (主◎)●		
水				建築構法計画 ・建築法規 (隔年)河野 ●	
木	建築施設計画 高橋節 (強○)●	都市計画論 長澤 (強○)●	人間・環境科学実験実習Ⅱ 全教員 (主◎)●		
金			人間・環境科学実験実習Ⅲ 全教員 (主◎)		

2018年度 3年生後期

	1・2限	3・4限	5・6限	7・8限	9・10限
月	医用工学 山内 (強○)		都市エネルギー工学 中久保 (強○)●		
火		建築構造力学 (隔年)糸井 (強○)●	情報工学演習 仲西・大瀧・中久保(主◎)		
水		システム工学 山田 (強○)●			
木		電子工学 太田 (強○)	西洋建築史 (隔年)元岡 (主○)●	建築材料学Ⅰ (隔年)兼松 ●	
金	環境心理学 (隔年)小崎 ●	建築設計製図演習Ⅲ 元岡・早草 ●	人間環境科学演習 太田・元岡・長澤・近藤・小崎 (主◎)		

前期集中
人間環境科学特別実習Ⅰ 太田(強○) ／ 人間環境科学特別実習Ⅱ 長澤(強○)● ／ 日本建築史(隔年偶数年)(強○)●

1～4年生 不定期
LIDEE演習 全教員(強○)

(主◎):主プログラム必修(38)、コア必修(4)
(主○):主プログラム選択(22)
(強○):強化プログラム(選択)(20)
●:建築関連科目

◇:コア科目(LA科目、基礎講義、語学など)
◆:コア科目の必修をみたす語学(12)

年度によって開講科目や時間割は変更されます。あくまでも、このモデル時間割は、参考例です。詳細は授業時間割などで確認してください。

モデル時間割を参考にしながら、4年間の履修計画をたててみましょう。

2016 年度 1 年生前期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月	基礎有機化学 ◎				
火			スポーツ健康実習◎◇		
水					
木		数学物理学演習Ⅰ ◎		情報処理演習生活D ◎	
金					

2016 年度 1 年生後期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月					
火			スポーツ健康実習◎◇		
水					
木					
金					

2017 年度 2 年生前期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月					
火	環境科学 ◎				
水					
木					
金					

2017 年度 2 年生後期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月					
火					
水				統計学 ◎	
木					
金		物理化学 ◎			

2018 年度 3 年生前期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月					
火			人間・環境科学実験実習Ⅰ ◎●		
水					
木			人間・環境科学実験実習Ⅱ ◎●		
金			人間・環境科学実験実習Ⅲ ◎		

2018 年度 3 年生後期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月					
火			情報工学演習 ◎		
水					
木					
金			人間環境科学演習 ◎		

2019 年度 4 年生前期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月					
火					
水					
木					
金					

通年:卒業論文 ◎

前期不定期:人間環境科学輪講Ⅰ ◎

2019 年度 4 年生後期

	1・2 限	3・4 限	5・6 限	7・8 限	9・10 限
月					
火					
水					
木					
金					

通年:卒業論文 ◎

後期不定期:人間環境科学輪講Ⅱ◎

履修計画の単位を確認しましょう。

コア科目 単位数	
主プログラム必修 単位数 (34単位)	
主プログラム (選択) 単位数 (26単位以上)	
強化プログラム 単位数 (20単位以上)	
強化プログラム (建築士受験資格に関する科目) 単位数	
自由に選択して履修する科目 単位数	
合計履修単位数	

6．人間生活学科

1．人間生活学科について

人間生活学科は、生活者の視点を基準にして、現代における様々な問題に切り込んでいくことを目指す学科ですが、その中でもとりわけ社会科学的・人文科学的な視点からの探究をすすめていきます。

従来より人間生活学科では、①生涯にわたる人間の発達、②生活を営むための人間社会のあり方、③民族、歴史や伝統、文化など様々な面が相互に関連した、複雑な営みについて探求してきました。また、高度に複雑化した現代社会における人間生活の営みを、総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材の育成に努めてきました。

複数プログラム選択履修制度の導入によって、これまでよりさらに、こうした多様な視点を持った人間生活への専門的な切り口を探究することが可能になっています。

発達臨床心理学講座の提供する主プログラムは、人間生活における発達・成長とそれを支える臨床、保育等をテーマに、理論のみならず実学や実習を重視して、構成されています。発達心理学、臨床心理学、保育学、児童学、小児科学、子ども社会学など、人間について探求するための知識と方法論を学びます。実験、観察、面接、心理テスト、質問紙など、実践で必要な心理学の基礎を学び、また、附属幼稚園、保育所等で観察実習を行い、子ども理解や保育的コミュニケーションに向かう資質の養成をします。学校の教員養成や、大学院に進んでの心理臨床や保育の専門家および研究者等養成の準備教育の場でもあります。

生活社会科学講座の提供する主プログラムは、「生活者」の視点に立って、学生が、法学、政治学、経済学、社会学、ジェンダー研究といった社会科学（Social Science）を基礎からしっかりと身につけ、これらの社会科学の手法を用いて、社会で生じている様々な現象、問題を科学的に解明し、さらにその解決のための処方箋、政策を考えることができるようになることを目標として、構成されています。そのため、間口が非常に広く、学際的・多角的であることが特徴となっています。

生活文化学講座の提供する主プログラムは、日常生活に関わるさまざまな文化事象、特に服飾、住まい、工芸、デザインなど、生活造形を切り口として、比較文化論、民俗学、歴史学、美学などの手法によって新しい文化論を構築することを目指し、構成されています。すなわち、これまでの人文科学の領域を横断するかたちで、生活をテーマに学んでいきます。生活に根ざした文化を学ぶことによって、現代生活の諸問題を解決する実践能力を養い、生活文化をリードする見識と創造力を養ってほしいと思います。

２.「主プログラム選択」について

人間生活学科には、３つの主プログラムが用意されています。発達臨床心理学主プログラム、生活社会学主プログラム、生活文化学主プログラムの３つです。自分が一番とりたいプログラムの１年次必修科目は履修することが望ましいですが、それだけでなく、志望が変わったときのため、あるいは広く学びたいという方は、他のプログラムの提供する１年次科目もとっておくといいかもしれません。ただし、人間生活学科の学生が、１年次の間に６ヶ月を超えて休学する場合は申請できません。

３．１年次の履修について

人間生活学科の１年生は、これから興味・関心に応じて、自分の選択する「主プログラム」を決めます。まだ「主プログラム」を決定する前の段階ですので、履修をする上で下記のことに注意してください。

（１）コア科目を幅広く履修する。

「文理融合リベラルアーツ」、「基礎講義」、「情報」、「外国語」、「スポーツ健康」を幅広く履修しましょう。

「情報処理演習（２単位）」、「外国語（12単位）」、「スポーツ健康実習（２単位）」は、とらなければならない単位数が設けられていますので、計画的に必ず履修しましょう。

コア科目では、専門分野の学修・研究を行う上での基礎を学ぶことになります。文理融合リベラルアーツ、基礎講義は、様々な分野の科目が準備されています。関心に応じて幅広く、かつ自らの学習計画に合う形で計画的に履修しましょう。

（２）２年次の「主プログラム選択」の希望を考えながら、１年次の重要な科目を履修する。

自分が進みたい第一希望の「主プログラム」の１年次に配当されている必修科目に加えて、第二希望の「主プログラム」の必修科目を履修しましょう。

「概論」科目は、人間生活学科の３つの主プログラム全てで２科目必修になっていますので、履修しましょう。

例えば、「生活社会科学主プログラム」が第一希望、「生活文化学主プログラム」が第二希望の学生は、「生活社会科学概論」に加えて「生活文化学概論」を履修しましょう。

また、選びたい「主プログラム」によっては、「主プログラム」（「一つ目の選択プログラム」）の中に１年次に履修するべき科目がある場合がありますので注意してください。

この点については、本冊子の人間生活学科各プログラムのページを参照してください。

そのほか、「生活科学概論」をぜひ履修しましょう（本冊子３ページ参照）。

発達臨床心理学プログラム

発達臨床心理学講座では、人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・幼児教育/保育学・児童学について理解を深め、さらに実践的な学習をとおして、学校や家庭、あるいは臨床心理などの現場に役立つ力を身に付けることを目指します。

授業科目は、１）専門的な知識や研究方法論を学ぶ講義科目、２）専門を深めるための演習科目、３）実際に現場を経験しながら実践的な思考や方法を学ぶ実習科目、そして４）自らの問題意識で分析・解釈を試みる卒業論文で構成されています。３年生までは全領域にわたって幅広く学び、４年生で領域を決めて、卒業論文を作成します。

４年間で学ぶ授業科目は、履修ガイドの生活科学部履修規程に掲載されています。卒業までに必要な単位は最低124単位です。124単位以上を下記の履修表にしたがって、コア科目や専門科目などから履修しなければなりません。

必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数
コア科目					専門教育科目（必修プログラム）				コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム										
		2以上	12以上	2以上														
34					42	20			28									124

プログラムの選択

複数プログラム選択履修制度は、「一つ目の選択プログラム」「二つ目の選択プログラム」そして「三つ目の選択プログラム」を選択できます。一つ目のプログラムとして「発達臨床心理学主プログラム」を選択する場合、二つめのプログラムとして「発達臨床心理学強化プログラム」を選択することができます。

また、二つ目のプログラムとして生活科学部の他学科・他講座の副プログラム、あるいは学際プログラムを選択することもできます。ただし、その場合でも卒業論文は、主プログラムとして選択した発達臨床心理学の領域で作成しなければなりません。

三つ目のプログラムとして生活科学部・他学部の副プログラム、あるいは学際プログラムを履修することができますから、挑戦してください。二つ目と三つ目のプログラムとしてなにが選択できるかは、『履修ガイド』をご覧ください。

以下に示す授業科目の記号は次のとおりです。

◎：必修科目。これを落とすと卒業できません。

○：選択科目。ただし、履修単位数の指定（例：○○単位以上）がある場合は、指定された選択科目の中から、必要単位を取れるように履修しなければなりません。

以下に示す記載要領は次のとおりです。

生活科学概論	2	（Ⅰ）
↑	↑	↑
科目名	単位数	１年次以上で履修可能

１．発達臨床心理学主プログラム（必修）　42単位

（１）必修科目

◎人間生活論(1)　1（Ⅰ）、◎人間生活論(2)　1（Ⅰ）、◎児童学概論　2（Ⅰ）、
◎発達臨床基礎論Ⅰ　2（Ⅰ）、◎発達臨床基礎論Ⅱ　2（Ⅰ）、◎発達臨床基礎演習Ⅰ　2（Ⅰ）、
◎発達臨床基礎演習Ⅱ　2（Ⅰ）、◎発達臨床心理学Ⅰ　2（Ⅰ）、◎発達臨床心理学Ⅱ　2（Ⅱ）、
◎発達臨床人格検査法　2（Ⅱ）、◎発達臨床観察法　2（Ⅱ）、◎心理統計法（理論）　2（Ⅲ）、
◎心理統計法（実践）　2（Ⅲ）、◎卒業論文　8（Ⅳ）

（２）演習科目

以下の９科目より４単位以上を履修すること。

○保育臨床講義講読　2（Ⅲ）、○人間関係講義講読　2（Ⅲ）、○人格発達講義講読　2（Ⅲ）、
○学校心理講義講読　2（Ⅲ）○心理臨床研究演習　2（Ⅲ）、○保育臨床研究演習　2（Ⅲ）、
○人間関係研究演習　2（Ⅲ）、○人格発達研究演習　2（Ⅲ）、○学校心理研究演習　2（Ⅲ）

（３）以下の２科目より少なくとも２単位を選択して履修

○生活文化学概論　2（Ⅰ）、○生活社会科学概論(1)　1（Ⅰ）、○生活社会科学概論(2)　1（Ⅰ）

（４）以下の科目も選択できます。主プログラムに、必要な42単位を超えた単位は「自由に選択して履修する科目」の単位として数えられます。

○生活科学概論　2（Ⅰ）、○家庭看護学　2（Ⅰ）、○保育実践論　2（Ⅰ）、○人間関係学　2（Ⅰ）

２．発達臨床心理学強化プログラム（選択）　20単位

講義科目、実習科目、演習科目のうち20単位を選択して履修すること。

（１）講義科目

○保育臨床学　2（Ⅱ）、○学校臨床学　2（Ⅱ）、○人格心理学　2（Ⅱ）、○保育学　2（Ⅱ）、
○カウンセリング論　2（Ⅱ）、○心理臨床学　2（Ⅱ）、○障害臨床学　2（Ⅱ）、
○児童社会文化論　2（Ⅱ）、○家族療法　2（Ⅱ・隔年）、○質問紙法　2（Ⅱ）、○面接法　2（Ⅱ・隔年）、
○産業心理臨床　2（Ⅱ・隔年）、○児童文化論　2（Ⅱ）、○発達臨床心理学専門英語　2（Ⅱ）、
○発達臨床特殊講義Ⅰ　2（Ⅱ・三年に一回）、○発達臨床特殊講義Ⅱ　2（Ⅱ・三年に一回）、
○発達臨床特殊講義Ⅲ　2（Ⅱ・三年に一回）

（２）実習科目

○心理臨床実習　2（Ⅲ）、○保育臨床実習　2（Ⅱ）、○発達臨床学特別実習Ⅰ　2（Ⅲ）、
○発達臨床学特別実習Ⅱ　2（Ⅲ）

（３）演習科目

○保育臨床講義講読　2（Ⅲ）、○人間関係講義講読　2（Ⅲ）、○人格発達講義講読　2（Ⅲ）、
○学校心理講義講読　2（Ⅲ）、○心理臨床研究演習　2（Ⅲ）、○保育臨床研究演習　2（Ⅲ）、
○人間関係研究演習　2（Ⅲ）、○人格発達研究演習　2（Ⅲ）、○学校心理研究演習　2（Ⅲ）、
○発達臨床論文演習Ⅰ　2（Ⅳ）、○発達臨床論文演習Ⅱ　2（Ⅳ）

３．資格について

教員免許状（中学・高校教諭１種免許状「家庭」）を取得したい人は、１年次から計画的に履修することが大切です。『教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表』、およびこの「手引き」の当該頁をよく読んで、履修してください。

また、学芸員、社会教育主事、社会調査士の資格取得も可能です。

４．４年間の履修計画

１年生は・・・

(1)　人間生活学科の必修科目を履修する。

・「人間生活論(1)」および「人間生活論(2)」は学科の必修です。
・「児童学概論」は発達臨床心理学主プログラムの必修です。
・「生活社会科学概論(1)」および「生活社会科学概論(2)」、「生活文化学概論」から２単位以上を履修しましょう。

(2)　コア科目を幅広く履修する。

文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語、スポーツ健康の科目を履修しましょう。
情報処理演習（２単位）、外国語（12単位）、スポーツ健康実習（２単位）は、単位数の下限が設けられていますので、計画的に必ず履修しましょう。
文理融合リベラルアーツ、基礎講義は、様々な分野の科目が準備されています。
自らの興味、関心に応じて、積極的かつ計画的に履修してください。

(3)　主プログラムの基礎の科目を履修する。

・人間生活学科の主プログラムの選択は２年次からですが、発達臨床心理学講座を主プログラムとして希望する場合、主プログラムが決定する前の１年次から「発達臨床基礎論Ⅰ」「発達臨床基礎論Ⅱ」、「発達臨床基礎演習Ⅰ」、「発達臨床基礎演習Ⅱ」、「発達臨床心理学Ⅰ」を履修することをおすすめします。
なお、これらの科目は２年次以上でも履修可能です。

２年生は・・・

(1)　主プログラムの必修科目を履修する。

・必修科目のうち、１年次から受講できる必修科目については、１年次と２年次に、できるだけ履修するようにしましょう。２年次以上で履修できる必修科目「発達臨床心理学Ⅱ」、「発達臨床人格検査法」、「発達臨床観察法」について、２年次から積極的に履修するようにしましょう。

(2)　二つ目のプログラム（強化、副、学際プログラム）を選択する。

発達臨床心理学の強化プログラムを選択することもできますし、生活科学部で提供している他の副プログラムや学際プログラムを選択することもできます。

①　発達臨床心理学強化プログラムの中から講義科目を履修する場合

・強化プログラムの講義科目は、毎年開講される科目と、隔年開講の科目、三年に一回の開講の科目があります。隔年開講の科目は、２年次で受講しないと次に受講できるのは、４年生になりますし、三年に一回の科目は三年後にならないと受講できないので注意してください。
・「発達臨床心理学専門英語」を履修する人は、できるだけ２年次に履修しましょう。
・実習については、「保育臨床実習」は２年次以降に、「心理臨床実習」は３年次以降に履修してください。この２科目中、必修にはなっていませんが必ず１科目以上を履修するようにしましょう。また、「発達臨床学特別実習Ⅰ」「発達臨床学特別実習Ⅱ」は、３年次以上の履修です。４月のガイダンスに必ず出席し、受講方法について十分に理解してください。

②　他の副プログラム、学際プログラムを履修する場合

・それぞれのプログラムの指示に沿って受講してください。

３年生は・・・

(1)　発達臨床心理学主プログラムの必修科目、演習科目を履修する。

・必修の「心理統計法（理論）」「心理統計法（実践）」を履修します。
・演習科目としては、前期に「講義講読」が４科目、後期に「研究演習」が５科目の計９科目が開講されています。４単位以上を履修してください。前期に「講義講読」のうち１科目以上、後期に「研究演習」のうち１科目以上を履修するようにしてください。関心のある演習科目を積極的に履修してください。

(2)　二つ目の選択プログラムの科目を履修する。

４年生は・・・

(1)　卒業論文の作成

・卒業論文８単位（必修）を完成させることが４年生の最大の課題です。
・卒業論文の締め切りは１月初旬です。
・１月末～２月に卒業論文発表会があります。

(2)　卒論指導の演習を履修する。

・必修ではありませんが、できるだけ、前期に「発達臨床論文演習Ⅰ」、後期に「発達臨床論文演習Ⅱ」を履修するようにしましょう。４月に、卒論のテーマを決め、発達臨床心理学講座の教員から１名の指導教員を選び、教員から開講の時間等の指示を受けてください。

(3)　単位の確認をする。

・「単位不足で卒業できない！」ということがないように、単位数の確認をしましょう。特に、主プログラムが42単位になっているかどうか、確認しましょう。

生活社会科学プログラム

生活社会科学講座は、生活科学部の前身である家政学部創設の時からの伝統である「生活者」の視点に立った、「生活の質（quality of life, QOL）」を重視する学習・研究を推進していきます。本講座では、学生が、法学（Legal Studies）、政治学（Political Science）、経済学（Economics）、社会学（Sociology）といった社会科学（Social Science）を総合的に基礎からみっちり学習し、身につけ、これらの社会科学の手法を用いて、社会で生じている様々な現象、問題を科学的に解明し、さらにその解決のための処方箋、政策を考えることができるようになることを目標としています。

４年間で学ぶ講義科目は、『履修ガイド』の生活科学部履修規程に掲載されています。卒業までに最低必要な単位は、**124単位**です。

生活社会科学プログラムの学生は、「**生活社会科学主プログラム**」（「**一つ目の選択プログラム**」）は必ず履修しなければなりませんが、「**二つ目の選択プログラム**」、「**三つ目の選択プログラム**」については、皆さんの学修目標、関心に応じて、いろいろな選択肢があります。４年間で目標を持って、楽しく実りある学習・研究生活を送ってください。

必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数
コア科目					専門教育科目（必修プログラム）			コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム									
34					42	20			28								124

プログラムの選択

次ページからの講義科目の記号は以下の通りです。

◎：必修科目　選んだプログラムにおける必修科目。単位を落とすと、プログラムの履修が認められません。

○：選択科目　選択できる科目。ただし、履修単位数の指定（例：○○単位以上）がある場合は、指定された選択科目の中から、必要単位を取れるように履修しなければなりません。

以下に示す記載要領は次のとおりです。

生活社会科学概論(1), (2)	各１	（Ⅰ）
↑	↑	↑
科目名	単位数	標準履修年次

２年次に生活社会科学講座に進級する学生は、必ず「**生活社会科学主プログラム**」（「**一つ目の選択プログラム**」を履修しなければなりません。

そして、「**生活社会科学強化プログラム**」あるいは、生活科学部の他学科、他講座の「**副プログラム**」、「**学際プログラム（消費者学）**」の中からプログラムを一つ選択しなければなりません。（「**二つ目の選択プログラム**」）

どの様なプログラムがあるかは、『履修ガイド』を参照してください。

これらの「**必修プログラム**」（「生活社会科学主プログラム」）と皆さんが選んだ「**二つ目の選択プログラム**」（「生活社会科学強化プログラム」ないし生活科学部の他学科、他講座の「副プログラム」、「学際プログラム（消費者学）」）を履修しても、卒業単位数には満たないと思います。

後は、本学で開講されている様々な科目、他大学との単位互換の中で単位認定の出来る他大学の科目を自由に履修して、卒業に必要な残りの単位数を満たすこともできます。

あるいは、さらにまだ選択していない他の「副プログラム」、「学際プログラム」（「**三つ目の選択プログラム**」）を履修することができます。「**三つ目の選択プログラム**」は、生活科学部のみならず、他学部の「副プログラム」、「学際プログラム」から選択することができます。ただし、一部選択できないプログラムもありますので、『履修ガイド』に掲載されている表をよく見てください。

最終的に合計単位数が卒業単位数を満たすように気をつけましょう。

プログラムの選択について、相談したい場合、「**総合学修支援センター**」で相談をすることができますので、活用してください。

＊「二つ目の選択プログラム」、「三つ目の選択プログラム」として選択できる全てのプログラムは、『履修ガイド』に掲載されています。

１．生活社会科学主プログラム（必修）　42単位

（１）必修科目

◎人間生活論(1), (2)　各１（Ⅰ）、◎生活社会科学概論(1), (2)　各１（Ⅰ）
◎生活社会科学演習(1), (2)　各１（Ⅱ）、◎家族社会学(1), (2)　各１（Ⅲ）
◎応用生活統計学(1), (2)　各１（Ⅰ）、◎社会統計学Ⅰ　２（Ⅱ）、◎ジェンダー論　２（Ⅰ～Ⅳ）
◎生活関連法　２（Ⅱ）、◎家族法　２（Ⅲ）、◎生活政治学(1), (2)　各１（Ⅱ）
◎家政経済学概論　２（Ⅰ～Ⅳ）、◎消費者経済学　２（Ⅱ）、◎家族関係論　２（Ⅰ～Ⅱ）
◎社会保障論　２（Ⅰ～Ⅳ）、◎卒業論文　８（Ⅳ）

（２）以下の２科目から少なくとも１科目（２単位）選択

○児童学概論　２（Ⅰ）、○生活文化学概論　２（Ⅰ）

（３）生活科学概論を履修する（選択科目）

○生活科学概論　２（Ⅰ）

（４）以下の科目から２科目（４単位）選択（ゼミ）

○家族法演習Ⅰ　２（Ⅲ）、○家族法演習Ⅱ　２（Ⅲ～Ⅳ）、○生活法学演習Ⅰ　２（Ⅲ）
○生活法学演習Ⅱ　２（Ⅲ）、○生活政治学演習Ⅰ　２（Ⅲ）、○生活政治学演習Ⅱ　２（Ⅲ）

○家族社会学演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○家族社会学演習Ⅱ　2(Ⅲ)、○生活福祉学演習Ⅰ　2(Ⅲ)
○生活福祉学演習Ⅱ　2(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅱ　2(Ⅲ)
○生活経済学演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○生活経済学演習Ⅱ　2(Ⅲ～Ⅳ)、○労働経済学演習Ⅰ　2(Ⅲ)
○労働経済学演習Ⅱ　2(Ⅲ)

2．生活社会科学強化プログラム（選択）　20単位

（1）必修科目

◎社会福祉学　2(Ⅱ)、◎労働経済学総論　2(Ⅲ)、◎社会統計学Ⅱ(1),(2)　各1(Ⅱ)
◎生活社会科学論文演習Ⅰ　2(Ⅳ)、◎生活社会科学論文演習Ⅱ　2(Ⅳ)

（2）選択科目

○生活社会科学専門英語　2(Ⅱ)、○女性政策論　2(Ⅰ～Ⅳ)、○法女性学　2(Ⅰ～Ⅳ)
○労働法　2(Ⅰ～Ⅱ)、○比較家族思想史　2(Ⅱ～Ⅳ)、○比較ジェンダー論　2(Ⅱ～Ⅳ)
○政治とジェンダー　2(Ⅱ～Ⅳ)、○消費者教育論　2(Ⅱ)、○労働経済学各論　2(Ⅱ)
○企業経営論　2(Ⅱ)、○老年学　2(Ⅱ～Ⅳ)、○老人福祉論　2(Ⅱ)、○児童福祉論　2(Ⅱ～Ⅳ)
○人口学　2(Ⅰ～Ⅳ)、○地域社会論　2(Ⅱ)、○生活調査法　2(Ⅱ)
○生活社会調査実習　2(Ⅱ～Ⅳ)、○生活経営学　2(Ⅰ～Ⅳ)、○財産と法　2(Ⅰ～Ⅳ)
○刑事法　2(Ⅰ～Ⅱ)、○生活法学　2(Ⅱ～Ⅳ)、○生活と行政　2(Ⅱ～Ⅳ)、○生活経済学　2(Ⅱ)
○生活と金融　2(Ⅰ～Ⅳ)、○生活と財政　2(Ⅰ～Ⅳ)、○国際経済と生活　2(Ⅱ～Ⅳ)
○国民経済と生活　2(Ⅱ～Ⅳ)、○生活社会科学実習　2(Ⅱ～Ⅳ)

（3）以下の科目から４単位までを含めることができる

○社会問題論(1),(2)　各1(Ⅱ～Ⅳ)、○現代社会論　2(Ⅰ～Ⅳ)、○現代生活論　2(Ⅰ～Ⅳ)、○社会意識論　2(Ⅱ～Ⅳ)、○比較社会論　2(Ⅱ～Ⅳ)、○社会政策論Ⅰ　2(Ⅰ～Ⅳ)、○社会政策論Ⅱ　2(Ⅱ～Ⅳ)、○都市地理学　2(Ⅰ～Ⅳ)、○経済地理学　2(Ⅰ～Ⅳ)、○社会地理学　2(Ⅰ～Ⅳ)

（4）以下の科目から４単位までを含めることができる

○家族法演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○家族法演習Ⅱ　2(Ⅲ～Ⅳ)、○生活法学演習Ⅰ　2(Ⅲ)
○生活法学演習Ⅱ　2(Ⅲ)、○生活政治学演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○生活政治学演習Ⅱ　2(Ⅲ)
○家族社会学演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○家族社会学演習Ⅱ　2(Ⅲ)、○生活福祉学演習Ⅰ　2(Ⅲ)
○生活福祉学演習Ⅱ　2(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅱ　2(Ⅲ)
○生活経済学演習Ⅰ　2(Ⅲ)、○生活経済学演習Ⅱ　2(Ⅲ～Ⅳ)、○労働経済学演習Ⅰ　2(Ⅲ)
○労働経済学演習Ⅱ　2(Ⅲ)

＊波線の科目は、文教育学部の開講科目です。

3．資格について

（1）教員免許状

教員免許状（中学・高校教員１種免許状「家庭」）を取得したい人は、１年生の時から計画的に履修することが大切です。『教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表』および本書の当該ページをよく読んで履修してください。

（2）社会調査士

社会調査士の資格が取得可能です。本冊子の該当ページをよく読んでください。

（3）消費生活アドバイザー

生活社会科学講座ないし生活科学部の提供する科目には、消費生活アドバイザーの資格試験の受験に必要な科目が多く含まれています。より詳しくは、本冊子の該当ページをよく読んでください。

（4）その他

4．４年間の履修計画

１年生は・・・

(1)　コア科目を幅広く履修する。

文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語、スポーツ健康の科目を履修しましょう。

情報処理演習（２単位）、外国語（12単位）、スポーツ健康実習（２単位）は、最低でも取らなくてはならない単位数の下限が設けられていますので、計画的に必ず履修しましょう。

文理融合リベラルアーツ、基礎講義は、様々な分野の科目が準備されています。

自らの興味、関心に応じて、積極的かつ計画的に履修してください。

(2)　人間生活学科の必修科目を履修する。

「人間生活論(1),(2)」は学科の必修です。

「生活社会科学概論(1),(2)」は生活社会科学主プログラムの必修科目ですので、生活社会科学主プログラムを希望する学生は履修するようにしましょう。

「児童学概論」、「生活文化学概論」から少なくとも１科目を履修しましょう。

「生活科学概論」は、選択科目ですが、学部全体の教員が参加する貴重な科目なので、ぜひ積極的に履修しましょう（本冊子３ページ参照）。

(3)　２年次に志望する「主プログラム」（「一つ目の選択プログラム」）の基礎の科目を履修する。

「生活社会科学主プログラム」を志望する学生は、「応用生活統計学(1),(2)」を履修しておきましょう。パソコンを使った統計実習です。社会科学を学ぶに当たって、統計学の基礎的な知識・技術を身につけることはとても重要です。

また、１年次から履修できる「家政経済学概論」、「家族関係論」、「ジェンダー論」、「社会保障論」などの必修科目もなるべく早めに履修しておくとよいでしょう。

２年生は・・・

(1)　主プログラム（「一つ目の選択プログラム」）の必修科目を履修する。

「生活社会科学主プログラム」必修の「社会統計学Ⅰ」、「生活関連法」、「生活政治学(1),(2)」、「消費者経済学」、「生活社会科学演習(1),(2)」などを履修する。

「生活社会科学演習」は、２年次のゼミの位置づけにあり、３年次から本格的に始まるゼミにおける学習・研究の基礎を身につけることを目標にしています。

なお、「社会統計学Ⅱ(1),(2)」は、「生活社会科学強化プログラム」の必修科目です。「生活社会科学強化プログラム」を選択する学生は必ず履修しましょう。

(2)　「生活社会科学専門英語」（「生活社会科学強化プログラム」・選択）を履修する。

「生活社会科学専門英語」は、「生活社会科学強化プログラム」の選択科目ですが、「生活社会科学強化プログラム」を選択する学生も選択しない学生も、積極的に履修しましょう。「生活社会科学専門英語」は、生活社会科学講座のカリキュラムの中で、２年生後期のゼミの位置づけになっており、社会科学を学ぶ上で必要な英語を学ぶことができますので、非常に重要な科目です。

(3)　強化プログラム、副プログラム（「二つ目の選択プログラム」）の科目を履修する。

複数プログラム選択履修制度の下では、生活社会科学講座の学生は、「**生活社会科学主プログラム**」を選択した後、自らの学習目標、関心に応じて他の様々なプログラムを選択することができます（「**二つ目の選択プログラム**」）。社会科学をさらに深く勉強したい場合は、「**生活社会科学強化プログラム**」を選びましょう。また、皆さんの関心、勉強したい分野に応じて、生活科学部の他学科、他講座の「副プログラム」、「学際プログラム（消費者学）」を選択することもできます。

さらに、もう一つのプログラム（「**三つ目の選択プログラム**」）を選択することもできます。「**三つ目の選択プログラム**」は、生活科学部の他学科、他講座のみならず、文教育学部、理学部の「副プログラム」、「学際プログラム」を選択することもできます。

これらの二つ目、三つ目のプログラム選択は２年次の１月ごろ以降に手続きをしますが、２年次の最初からある程度目標をもって、選択予定のプログラムの必修科目などを計画的に履修してください。

大学に入学してから、様々な新しい関心を持つようになると思います。どの様にプログラムを選択したらよいか迷う時もあると思いますが、その際は、遠慮なく講座の教員や総合学修支援センターに相談してください。

(4)　「生活社会科学実習」（「生活社会科学強化プログラム」・選択）を履修する。

大学生活は、皆さんが社会に巣立つための準備をする期間でもあります。また、皆さんの学んでいる生活社会科学を学ぶ上で、大学における理論研究・学習に加えて、現実社会を観察し、知ることもとても大切です。「生活社会科学実習」は、生活社会科学講座の指定する企業、官公庁、ＮＰＯにおいてインターンシップ（就業体験）を行う科目です。積極的に履修しましょう。実習先および履修について、前期に生活社会科学講座助手室（大学本館301室）の掲示板に掲示されるので、注意して見ていてください。

３年生は・・・

(1)　主プログラム（「一つ目の選択プログラム」）の必修科目・選択科目を履修する。

「家族社会学」(1),(2)、「家族法」を履修しましょう。

(2)　選択した強化プログラム、副プログラム、学際プログラム（「二つ目の選択プログラム」）の必修科目を中心に選択科目も併せて履修する。

(3)　意欲的に「三つ目の選択プログラム」を履修する。

(4)　主プログラム（・強化プログラム）のうち、「〇〇学演習」（ゼミ）を履修する。

３年次から選択科目である「〇〇学演習」（ゼミ）が開講されます。いくつかあるゼミの中から自分の研究テーマにあったものを選択して履修します。「〇〇学演習」にはⅠ・Ⅱとありますが、原則として、〇〇は同一名称のもの選びます。例えば、前期に「生活政治学演習Ⅰ」を履修した人は、後期も「生活政治学演習Ⅱ」を履修するということです。ゼミは、２つまでとることができます。詳しくは、２年次の終わり頃に開催されるゼミ・オリエンテーションで説明があります。

４年生は・・・

(1)　卒業論文を書く。

卒業論文（８単位・主プログラム必修）を完成させることが、４年生の最大の目標であり、課題です。

卒業論文の指導は、所属するゼミ（第２ゼミも含む）の指導教員を中心に行います。

提出された卒業論文に対しては、合格・不合格の審査が行われます。

指導教員が主査になり、さらにもう１名の副査の教員を加えて、２名で査読が行われます。

１月末か２月初めに開催される卒論審査会において、生活社会科学講座の各教員が、全発表者一人一人に評点をつけます。

審査会終了後、査読結果に加えて、卒論審査会における各教員の評点も考慮して、講座の全教員で合議が行われ、「卒業論文（８単位）」の単位認定の可否、成績評価を一人一人決めていきます。

卒論として特に優れていると認められた論文（若干数）は、表彰されます（生活社会科学研究会賞、花経会賞）。過去の受賞論文は、講座のウェブページの卒論一覧にマークが付いています。

(2)　生活社会科学論文演習Ⅰ、生活社会科学論文演習Ⅱを履修する。

これらの科目は、卒業論文の指導を受ける時に履修する科目です。

４年次にはできる限り履修しましょう。

なお、生活社会科学強化プログラムを選択した場合、この二科目は必修です。

(3)　単位の確認をする。

「単位不足で卒業できない！」ということにならないよう、単位数の確認をしましょう。

＃外国語（１カ国語）12単位の内訳が履修ガイドの一覧で「＊」の付いている科目であることを確認してください。（特に間違いが多い点です。）

＃必修科目をすべて取っているかどうか、必ず再確認してください。

そのほか

(1)　他大学との単位互換協定について

(2)　留学について

(3)　大学ホームページ上の「Webシラバス」の活用

(4)　各種相談室について

生活文化学プログラム

生活文化学は、衣食住はもとより家族観や生活感情まで、具体的な生活の事象とそれを支える思想について考える学問です。人文科学の一つですが、現代生活や過去の生活を対象とし、歴史・文学・美術などに関するこれまでの人文科学の分野を横断するかたちで、その手法を使って考究する領域です。

生活文化学プログラムは、日本・西洋を対象とする服飾史・服飾文化論、日本の文化を対象とする民俗学、多様な異文化を理解する比較文化論および生活造形論を中心として組まれています。古今東西の生活文化に関する幅広い知識を身に付け、自ら問題意識をもって文化事象を追究することのできる方法論と分析力を身に付けることを目指します。

授業科目は、１）生活文化学の対象と学問領域に関する基本を学ぶ概論などの講義科目、２）専門として深化させるために資料の読み方を学ぶ講義科目と基礎演習、そして３）実際に自らの問題意識で分析・解釈を試みる演習と卒業論文で構成されています。３年生までは全領域にわたって幅広く学び、４年生で領域を決めて、卒業論文を作成しましょう。

４年間で学ぶ授業科目は、履修ガイドの生活科学部履修規程に掲載されています。卒業までに必要な単位は最低124単位です。124単位以上を下記の履修表にしたがって、コア科目や専攻科目などから履修しなければなりません。

必修及び選択必修の科目・単位									自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数
コア科目					専門教育科目（必修プログラム）				コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム										
34					42	20			28									124

プログラムの選択

複数プログラム選択履修制度は、「一つ目の選択プログラム」「二つ目の選択プログラム」そして「三つ目の選択プログラム」を選択できます。一つ目のプログラムとして「生活文化学主プログラム」を選択する場合、二つ目のプログラムとして「生活文化学強化プログラム」を選択することができます。

また二つ目として生活科学部の他学科・他講座の副プログラム、あるいは学際プログラムを選択することができます。ただし卒業論文は、主プログラムとして選択した生活文化学の領域で作成しなければなりません。

「三つ目の選択プログラム」として生活科学部・他学部の副プログラムを履修することができます。

二つ目と三つ目の選択プログラムとしてなにが選択できるかは、『履修ガイド』をご覧ください。

以下に示す授業科目の記号は次のとおりです。

◎：生活文化学プログラムの必修科目。これを落とすと卒業できません。
○：生活文化学プログラムの選択科目。ただし、履修単位数の指定（例：○○単位以上）がある場合は、指定された選択科目の中から、必要単位を取れるように履修しなければなりません。
＊：単位分割科目。留学の申請のある場合のみ、複数年次にわたって単位分割科目を履修することを認めます。留学を予定しない学生は、必ず同一年度で単位分割科目を(1)(2)ともに履修しなければなりません。

以下に示す記載要領は次のとおりです。

生活文化学概論	2	（Ⅰ）
↑	↑	↑
科目名	単位数	標準履修年次

1．生活文化学主プログラム（必修）　42単位

（1）必修科目

◎人間生活論(1)＊　1（Ⅰ）　◎人間生活論(2)＊　1（Ⅰ）　◎生活文化学概論　2（Ⅰ）
◎生活造形論　2（Ⅰ）　◎民俗学　2（Ⅰ）　◎服飾文化概論　2（Ⅰ）　◎服飾美学概論　2（Ⅰ）
◎服飾史論(1)＊　1（Ⅱ）　◎服飾史論(2)＊　1（Ⅱ）　◎服飾史資料論(1)＊　1（Ⅱ）
◎服飾史資料論(2)＊　1（Ⅱ）　◎比較生活文化論(1)＊　1（Ⅱ）　◎比較生活文化論(2)＊　1（Ⅱ）
◎比較生活文化史Ⅰ(1)＊　1（Ⅱ）　◎比較生活文化史Ⅰ(2)＊　1（Ⅱ）　◎民俗文化史概論(1)＊　1（Ⅱ）
◎民俗文化史概論(2)＊　1（Ⅱ）　◎歴史民俗文化論(1)＊　1（Ⅱ）　◎歴史民俗文化論(2)＊　1（Ⅱ）
◎生活文化学論文演習Ⅰ　2（Ⅳ）　◎生活文化学論文演習Ⅱ　2（Ⅳ）　◎卒業論文　8（Ⅳ）

（2）以下の４科目より２科目以上を選択して履修

○比較文化論基礎演習　2（Ⅲ）　○民俗文化史基礎演習　2（Ⅲ）
○日本服飾史演習Ⅰ　2（Ⅲ）　○服飾文化論基礎演習　2（Ⅲ）

（3）以下の科目より２単位以上を選択して履修

○生活社会科学概論(1)＊　1（Ⅰ）　○生活社会科学概論(2)＊　1（Ⅰ）　○児童学概論　2（Ⅰ）

（4）以下の科目も選択できます。主プログラムに必要な42単位を超えた単位は「自由に選択して履修する科目」の単位として数えられます。

○生活科学概論　2（Ⅰ）　○被服学概論　2（Ⅰ～Ⅳ）　○被服製作実習　1（Ⅱ～Ⅳ）

2．生活文化学強化プログラム（選択）　20単位

（1）以下の４科目より２単位以上を選択して履修

○比較文化論演習　2（Ⅲ）　○民俗文化史演習　2（Ⅲ）　○服飾文化論演習　2（Ⅲ）
○日本服飾史演習Ⅱ　2（Ⅲ）

（2）生活文化学講座の教員が担当する科目

○服飾史Ⅰ　2（Ⅱ）　○服飾史Ⅱ　2（Ⅱ）　○民俗文化史各論　2（Ⅱ・Ⅲ）
○服飾文化各論　2（Ⅱ・Ⅲ）　○服飾美学各論　2（Ⅱ・Ⅲ）　○比較文化論演習　2（Ⅲ）
○民俗文化史演習　2（Ⅲ）　○服飾文化論演習　2（Ⅲ）　○日本服飾史演習Ⅱ　2（Ⅲ）
○生活文化実習Ⅰ　1（Ⅱ）　○生活文化実習Ⅱ　1（Ⅲ）　○生活造形史　2（Ⅱ・Ⅲ）

（3）主に非常勤講師が担当する科目

○環境デザイン論　2（Ⅱ・Ⅲ）　○生活文化論　2（Ⅱ・Ⅲ）
○工芸史　2（Ⅱ・Ⅲ）　○比較生活文化史Ⅱ　2（Ⅱ・Ⅲ）　○地域文化論　2（Ⅱ・Ⅲ）
○現代文化論　2（Ⅱ・Ⅲ）　○文化情報論　2（Ⅱ・Ⅲ）　○美学・芸術学　2（Ⅱ）
○西洋服飾論　2（Ⅱ）　○日本服飾論　2（Ⅱ）　○服飾制作実習　1（Ⅱ）
○生活文化学専門英語　2（Ⅱ）　○服飾文化実習　1（Ⅱ・Ⅲ）　○ＬＩＤＥＥ演習　2（Ⅰ～Ⅳ）

3．資格について

教員免許状（中学・高校教員１種免許状「家庭」）を取得したい人は、１年次から計画的に履修することが大切です。『教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表』、およびこの「手引き」の当該頁をよく読んで、履修してください。

また、学芸員、社会教育主事の資格取得が可能です。

4．４年間の履修計画

１年生は・・・

(1)　人間生活学科の必修科目を履修する。

・「人間生活論(1)」、「人間生活論(2)」は学科の必修です。
・「生活文化学概論」は生活文化学主プログラムの必修です。
・「生活社会科学概論(1)」、「生活社会科学概論(2)」、「児童学概論」から２単位以上を履修しましょう。

(2)　コア科目を幅広く履修する。

文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語、スポーツ健康の科目を履修しましょう。

情報処理演習（２単位）、外国語（12単位）、スポーツ健康実習（２単位）は、単位数の下限が設けられていますので、計画的に必ず履修しましょう。

文理融合リベラルアーツ科目、基礎講義は、様々な分野の科目が準備されています。
自らの興味、関心に応じて、積極的かつ計画的に履修してください(とくに人文科学系諸科目)。

(3)　生活文化学主プログラムの基礎の科目を履修する。

・生活文化学主プログラムを希望する場合は、基礎となる４科目「生活造形論」「民俗学」「服飾文化概論」「服飾美学概論」を１年次で履修できます。

２年生は・・・

(1)　主プログラムの必修科目を履修する。

・必修科目は生活文化学講座の教員が担当し、原則として毎年開講されます。
・取り落とすと翌年度の時間割に影響しますから、２年次に必ず単位をとりましょう。

(2)　強化プログラムの中から講義科目を履修する。

・強化プログラムの講義科目は、非常勤講師による隔年開講がほとんどですから、開講された年に履修しましょう。

(3)　「生活文化学専門英語」を履修する人は、２年次に履修しましょう。

(4)　実習の履修。

・実習は２箇学期（15回の授業）で１単位です。
・「生活文化実習I」は２年次で履修してください。
・「服飾文化実習」は隔年開講ですから、２年次または３年次で履修してください。
・「服飾制作実習」は毎年開講されますが、２年次で履修してください。

３年生は・・・

(1)　主プログラムの演習科目を履修する。

・前期に少なくとも２科目を履修しましょう。

(2)　強化プログラムの中から講義科目を履修する。

(3)　強化プログラムの演習科目を履修する。

・それぞれ主プログラムの演習科目に対応していますから、同様に２科目以上を後期に履修しましょう。

(4)　実習の履修。

・「生活文化実習Ⅱ」は３年次で履修してください。

４年生は・・・

(1)　卒業論文の作成

・卒業論文８単位（必修）を完成させることが、４年生の最大の目標であり、課題です。
・卒業論文の締め切りは12月中～下旬です。
・９月下旬から10月上旬に卒業論文中間発表会があります。２月上旬に卒業論文発表会があります。
・卒業論文の査読は指導教員と副査の教員の２名以上で行います。
・２月上旬に開催される卒論発表会において、生活文化学講座の各教員が、全発表者一人一人に評点をつけます。
・発表会終了後、査読結果と発表会の結果を考慮し、講座の全教員の合議により「卒業論文」（８単位）の単位認定、および成績評価の判定を行います。

(2)　卒論指導の演習を履修する。

・１・２学期に「生活文化学論文演習Ⅰ」、３・４学期に「生活文化学論文演習Ⅱ」を履修します。
・４月に、卒論のテーマを決め、生活文化学講座の教員から１名の指導教員を選び、教員から上記「論文演習Ⅰ・Ⅱ」の開講の時間等の指示を受けてください。

(3)　単位の確認をする。

・「単位不足で卒業できない！」ということがないように、単位数の確認をしましょう。

(4)　アカデミック・トラック

・大学院進学希望者は、４年次に大学院の授業を履修することができます。（ただし、単位化されるのは大学院入学後です。）詳細は指導教員におたずね下さい。
・大学院・生活文化学コースでは、８月と２月に入試を行っています。進学希望者には８月の推薦入試の受験をお勧めしています。指導教員にご相談下さい。

7．生活科学部の副プログラム

生活科学部の各学科、講座の提供する副プログラムを紹介します。

人間・環境科学科の提供する副プログラム

人間・環境科学副プログラム　20単位以上

①　教育目標

人間や環境に関わる理学や工学を総合的に幅広く学ぶことを目標とします。環境と科学技術のありかたについて、今後の技術動向に関する分析力を養うとともに、人間・環境に関わる科学技術について理解を目指します。文系・理系学習者のいずれも受講可ですが、履修にあたっては、基礎的な理系科目の知識を有することがのぞまれます。

②　内容・構成

人間・環境科学科の主プログラムならびに強化プログラムにおいて提供される科目群から、受講者の関心に従って選択して受講してください。なお、●印の科目は、建築士受験資格に関する科目です。所属学部学科にかかわらず、建築士受験資格に関する科目を所定の単位以上履修した上で卒業すれば、二級建築士の受験資格を得ることができます（取得単位数により、必要な実務経験が０年～２年となります）。ただし、建築士受験資格を取得するには、厳しい履修条件が課されているので、建築士受験資格取得希望者は、かならず、人間・環境科学科の教員に事前に相談してください。

建築士受験資格についての詳細は、「履修ガイド」の諸資格の取得、建築士受験資格を参照してください。

統計学　２（Ⅱ）
●環境生理学　２（Ⅱ）
●基礎構造力学　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築環境計画論　２（Ⅱ）
●システム工学　２（Ⅲ）
医用工学　２（Ⅲ）
情報工学演習　２（Ⅲ）
環境心理学　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●設計製図基礎　２（Ⅰ）
●建築設計製図演習Ⅲ　２（Ⅲ）
●建築法規　１（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築設備学　２（Ⅱ～Ⅲ）
都市計画論　２（Ⅲ）
●環境デザイン論　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年

環境科学　２（Ⅱ）
ヒトと文化　２（Ⅰ～Ⅳ）
●住居学概論　２（Ⅰ）
●都市エネルギー工学　２（Ⅲ）
環境材料物性　２（Ⅲ）
●人間環境科学実験実習Ⅰ　２（Ⅲ）
人間環境科学演習　２（Ⅲ）
●建築材料学Ⅰ　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築設計製図演習Ⅰ　２（Ⅱ）
●西洋建築史　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築生産　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築意匠論　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築構造力学　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年

反応工学論　２（Ⅱ）
●建築一般構造　２（Ⅰ）
資源循環工学　２（Ⅱ）
人間工学　２（Ⅱ～Ⅲ）
水環境工学　２（Ⅲ）
●人間環境科学特別実習Ⅱ　２（Ⅲ）
●建築環境工学　２（Ⅱ）
●建築材料学Ⅱ　２（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築設計製図演習Ⅱ　２（Ⅱ）
日本建築史　２（Ⅰ～Ⅳ）隔年
●建築構法計画　１（Ⅱ～Ⅲ）隔年
●建築施設計画　２（Ⅲ）
●測量学　２（Ⅱ～Ⅳ）隔年

発達臨床心理学講座の提供する副プログラム

発達臨床心理学副プログラム　20単位

人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・幼児教育/保育学的理解を深めることは、あらゆる人間関係におけるコミュニケーションの課題を考えるうえで、重要なことです。本プログラムでは、人間の心理・発達を学ぶことにより、人間に対する理解を深めることを目的としています。

内容は、講座の提供教員全員による児童学概論を必修科目とし、多様なテーマに関する講義科目、および演習科目で構成されます。必修科目は１科目で、他は関心に応じて選択することができますが、演習科目に関しては、かならず担当教員と相談のうえ、履修するようにしてください。

（１）必修科目　２単位

○児童学概論　２（Ⅰ）

※ただし、他プログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たす必要がある。

（２）選択科目　18単位

・講義科目

○人間関係学　２（Ⅰ）、○発達臨床心理学Ⅰ　２（Ⅰ）、○発達臨床心理学Ⅱ　２（Ⅱ）、
○保育臨床学　２（Ⅱ）、○学校臨床学　２（Ⅱ）、○人格心理学　２（Ⅱ）、○保育学　２（Ⅱ）、
○カウンセリング論　２（Ⅱ・隔年）、○心理臨床学　２（Ⅱ）、○障害臨床学　２（Ⅱ）、
○児童社会文化論　２（Ⅱ）、○家族療法　２（Ⅱ・隔年）、○質問紙法　２（Ⅱ）、
○面接法　２（Ⅱ・隔年）、○産業心理臨床　２（Ⅱ・隔年）、○児童文化論　２（Ⅱ）、
○発達臨床特殊講義Ⅰ　２（Ⅱ・三年に一回）、○発達臨床特殊講義Ⅱ　２（Ⅱ・三年に一回）、
○発達臨床特殊講義Ⅲ　２（Ⅱ・三年に一回）

・演習科目

○保育臨床講義講読　２（Ⅲ）、○人間関係講義講読　２（Ⅲ）、○人格発達講義講読　２（Ⅲ）、
○学校心理講義講読　２（Ⅲ）、○心理臨床研究演習　２（Ⅲ）、○保育臨床研究演習　２（Ⅲ）、
○人間関係研究演習　２（Ⅲ）、○人格発達研究演習　２（Ⅲ）、○学校心理研究演習　２（Ⅲ）

生活社会科学講座の提供する副プログラム

公共政策論副プログラム　20単位

① 目標・ねらい

さまざまな主専攻領域で学んできた学生を想定し、社会科学の基本的な考え方と方法論の基礎を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ実践に活かすための力を養うことを目的とします。公務員受験等の資格試験を志望する学生にも役立つカリキュラムを提供します。

② 内容・構成

社会科学の基本的な考え方と方法論を習得するため、「生活社会科学概論(1)(2)」、「生活社会科学演習(1)(2)」を必修とします。さらに、社会科学の考え方を実践的に身につけるために、演習科目（ゼミナール）を２科目（同一演習のⅠ，Ⅱ）を履修する機会を持てるようにしています。

（１）必修科目

◎生活社会科学概論(1),(2)　２(Ⅰ)、◎生活社会科学演習(1),(2)　２(Ⅱ)

※ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たす必要があります。

（２）選択科目

○ジェンダー論　２(Ⅰ～Ⅳ)、○生活関連法　２(Ⅱ)、○家族法　２(Ⅲ)
○生活政治学(1),(2)　２(Ⅱ)、○家政経済学概論　２(Ⅰ～Ⅳ)、○消費者経済学　２(Ⅱ)
○女性政策論　２(Ⅰ～Ⅳ)、○労働法　２(Ⅰ～Ⅱ)、○政治とジェンダー　２(Ⅱ～Ⅳ)
○社会福祉学　２(Ⅱ)、○消費者教育論　２(Ⅱ)、○労働経済学総論　２(Ⅲ)
○社会保障論　２(Ⅰ～Ⅳ)、○老人福祉論　２(Ⅱ)、○児童福祉論　２(Ⅱ～Ⅳ)、○地域社会論　２(Ⅱ～Ⅳ)
○生活経営学　２(Ⅰ～Ⅳ)、○財産と法　２(Ⅰ～Ⅳ)、○刑事法　２(Ⅰ～Ⅱ)、○生活法学　２(Ⅱ～Ⅳ)
○生活と行政　２(Ⅱ～Ⅳ)、○生活経済学　２(Ⅱ)、○生活と金融　２(Ⅰ～Ⅳ)
○生活と財政　２(Ⅰ～Ⅳ)、○国際経済と生活　２(Ⅱ～Ⅳ)、○国民経済と生活　２(Ⅱ～Ⅳ)

（３）以下の科目から４単位までを含めることができる

○家族法演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○家族法演習Ⅱ　２(Ⅲ～Ⅳ)、○生活法学演習Ⅰ　２(Ⅲ)
○生活法学演習Ⅱ　２(Ⅲ)、○生活政治学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○生活政治学演習Ⅱ　２(Ⅲ)
○家族社会学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○家族社会学演習Ⅱ　２(Ⅲ)、○生活福祉学演習Ⅰ　２(Ⅲ)
○生活福祉学演習Ⅱ　２(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅱ　２(Ⅲ)
○生活経済学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○生活経済学演習Ⅱ　２(Ⅲ～Ⅳ)、○労働経済学演習Ⅰ　２(Ⅲ)
○労働経済学演習Ⅱ　２(Ⅲ)

ジェンダー論副プログラム　20単位

① 目標・ねらい

さまざまな主専攻領域で学んできた学生を対象にしています。社会科学領域におけるジェンダー研究の視点と方法を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ研究や実践に活かすための力を養うことを目的とします。

② 内容・構成

社会科学とジェンダー研究の基本的な考え方と方法論を習得するため、「生活社会科学概論(1)(2)」「生活社会科学演習(1)(2)」「ジェンダー論」を必修とする。また、社会科学的な考察力をより強化するために、演習科目（ゼミナール）を２科目（同一演習のⅠ，Ⅱ）を履修する機会を持てるようにしています。

（１）必修科目

◎生活社会科学概論(1),(2)　２(Ⅰ)、◎生活社会科学演習(1),(2)　２(Ⅱ)
◎ジェンダー論　２(Ⅰ～Ⅳ)

※ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位をみたす必要があります。

（２）選択科目

○家族法　２(Ⅲ)、○家族関係論　２(Ⅰ・Ⅱ)、○女性政策論　２(Ⅰ～Ⅳ)
○法女性学　２(Ⅰ～Ⅳ)、○労働法　２(Ⅰ～Ⅱ)、○比較家族思想史　２(Ⅱ～Ⅳ)
○比較ジェンダー論　２(Ⅱ～Ⅳ)、○政治とジェンダー　２(Ⅱ～Ⅳ)、○社会福祉学　２(Ⅱ)
○労働経済学総論　２(Ⅲ)、○社会保障論　２(Ⅰ～Ⅳ)、○家族社会学(1),(2)　２(Ⅲ)
○老年学　２(Ⅱ～Ⅳ)、老人福祉論　２(Ⅱ)、○児童福祉論　２(Ⅱ～Ⅳ)、○生活関連法　２(Ⅱ)
○生活法学　２(Ⅱ～Ⅳ)、○生活と行政　２(Ⅱ～Ⅳ)、○国際経済と生活　２(Ⅱ～Ⅳ)
○国民経済と生活　２(Ⅱ～Ⅳ)

（３）以下の科目から４単位までを含めることができる

○家族法演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○家族法演習Ⅱ　２(Ⅲ～Ⅳ)、○生活法学演習Ⅰ　２(Ⅲ)
○生活法学演習Ⅱ　２(Ⅲ)、○生活政治学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○生活政治学演習Ⅱ　２(Ⅲ)
○家族社会学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○家族社会学演習Ⅱ　２(Ⅲ)、○生活福祉学演習Ⅰ　２(Ⅲ)
○生活福祉学演習Ⅱ　２(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○消費者経済学演習Ⅱ　２(Ⅲ)
○生活経済学演習Ⅰ　２(Ⅲ)、○生活経済学演習Ⅱ　２(Ⅲ～Ⅳ)、○労働経済学演習Ⅰ　２(Ⅲ)
○労働経済学演習Ⅱ　２(Ⅲ)

生活文化学講座の提供する副プログラム

生活文化学副プログラム　20単位

①　目標・ねらい

文化的な視野において人間の精神生活に対する理解を深めることは、生活の質を考える上でもっとも重要であり、生活をとりまく身近な文化に関心をもつことは、生活者として必要なことです。本プログラムは、生活造形を中心とした生活文化学の基本を学ぶことにより、より創造的な生活の感性を養うことを目指しています。学芸員の資格を取得するための履修科目が複数含まれています。

②　内容・構成

生活造形に関するもっとも基礎的な知識を習得する概論などの基礎科目、生活文化・思想・芸術など多様なテーマに関する講義科目、および基礎演習科目で構成されます。基礎４科目を必修とし、他は自由に選択することができます。演習科目を一つは履修することが望まれます。

（１）必修科目（８単位）

◎服飾美学概論　２（Ⅰ）、◎生活造形論　２（Ⅰ）、◎民俗学　２（Ⅰ）、◎服飾文化概論　２（Ⅰ）

（２）以下の科目から12単位以上選択

○服飾史論(1)　１（Ⅱ）、○服飾史論(2)　１（Ⅱ）、○服飾史資料論(1)　１（Ⅱ）
○服飾史資料論(2)　１（Ⅱ）、○服飾史Ⅰ　２（Ⅱ）、○服飾史Ⅱ　２（Ⅱ）
○比較生活文化論(1)　１（Ⅱ）、○比較生活文化論(2)　１（Ⅱ）、○比較生活文化史Ⅰ(1)　１（Ⅱ）
○比較生活文化史Ⅰ(2)　１（Ⅱ）、○民俗文化史概論(1)　１（Ⅱ）、○民俗文化史概論(2)　１（Ⅱ）
○歴史民俗文化論(1)　１（Ⅱ）、○歴史民俗文化論(2)　１（Ⅱ）、○比較文化論基礎演習　２（Ⅲ）
○民俗文化史基礎演習　２（Ⅲ）、○日本服飾史演習Ⅰ　２（Ⅲ）、○服飾文化論基礎演習　２（Ⅲ）
○民俗文化史各論　２（Ⅱ・Ⅲ）、○環境デザイン論　２（Ⅱ・Ⅲ）、○生活文化論　２（Ⅱ・Ⅲ）
○生活造形史　２（Ⅱ・Ⅲ）、○工芸史　２（Ⅱ・Ⅲ）、○比較生活文化史Ⅱ　２（Ⅱ・Ⅲ）
○地域文化論　２（Ⅱ・Ⅲ）、○現代文化論　２（Ⅱ・Ⅲ）、○文化情報論　２（Ⅱ・Ⅲ）
○美学・芸術学　２（Ⅱ・Ⅲ）、○西洋服飾論　２（Ⅱ）、○日本服飾論　２（Ⅱ）
○服飾文化各論　２（Ⅱ・Ⅲ）、○服飾美学各論　２（Ⅱ・Ⅲ）

8．生活科学部の学際プログラム「消費者学」

学際プログラム「消費者学」20単位

生活科学部が提供する学際プログラムは、「消費者学」です。
科目構成は以下の通りです。
必修は、「消費者科学入門」「国民経済と生活」「消費者法」の３科目です（計６単位）。
そのほかに、下記の選択科目から７科目（計14単位）以上を履修する必要があります。

消費者学（学際プログラム）		
授業科目	単位数	必修・選択の区別
消費者科学入門	2	必修
国民経済と生活	2	必修
消費者法	2	必修
消費者教育論	2	選択
企業経営論	2	選択
家政経済学概論	2	選択
環境衛生学(1),(2)	2	選択
建築環境計画論	2	選択
医療と健康	2	選択
社会保障論	2	選択
被服学概論	2	選択
食物学概論	2	選択
住居学概論	2	選択
生活と財政	2	選択
生活と金融	2	選択
社会統計学Ⅰ	2	選択
社会統計学Ⅱ(1),(2)	2	選択
生活調査法	2	選択
消費者経済学	2	選択
生活造形論	2	選択
現代文化論	2	選択
発達臨床心理学Ⅰ	2	選択
児童学概論	2	選択
カウンセリング論	2	選択
応用統計学	2	選択
建築一般構造	2	選択
国際栄養学	2	選択

「消費者学」の教育目標は、消費生活にともなう諸問題を、生活科学部の特徴を活かして、学際的・多角的・総合的に学ぶ点にあります。内容は、成熟した市民社会を担う能動的消費者（消費者市民）となるための基礎的カリキュラムとなっています。消費生活アドバイザー資格試験を受ける人にも最適のプログラムと言えるでしょう（本冊子の「消費生活アドバイザー資格」をご覧下さい）。

「消費者学」は、学際プログラムですから、生活科学部のすべての主プログラム履修者に対して、二つ目のプログラム選択の候補となりえます。あるいは、全学部のすべての主プログラム履修者に対して、三つ目のプログラム選択の候補となりえます。

9．免許・資格

中学校・高等学校教員免許（家庭）

＊本稿はあくまでも学生の皆さんの便宜のための「手引き」です。大学より配付される「教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表」、及び「履修ガイド」の中の「教育職員免許状」の項が、大学の正規の説明であるので、これらを熟読してください。

＊＊新入生オリエンテーションにおける、教職についての説明をよく聞いてください。

1．基礎資格および最低修得単位数

家庭科教員免許を取得するために必要な基礎資格および最低修得単位数は次の通りである。

中学校教員と高等学校員の免許の両方を取得することが望ましい。

	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科または教職に関する科目	介護等体験
中 学 校（一種）	学士の学位を有すること。	20単位	31単位	8 単位	必　要
高等学校（一種）		20単位	27＊単位	16単位	－

＊免許法では23単位となっているが、本学では「各科目に含めることが必要な事項」をすべて網羅する必要があるので27単位修得する必要がある。

2．教科・教職以外の科目

上記の表の教職関係の科目以外に必要な科目は次の通りである。

(1)　日本国憲法　２単位

「法学Ⅰ（日本国憲法）」　２単位　必修　コア科目

(2)　体　育　２単位

「スポーツ健康実習」　２単位　必修　コア科目

(3)　外国語コミュニケーション　４単位

「中級英語Ⅰ(1), (2)」＊　各１単位　選択　コア科目

「中級英語Ⅱ(1), (2)」＊　各１単位　選択　コア科目

「基礎ドイツ語Ⅲ」＊　２単位　選択　コア科目

「基礎ドイツ語Ⅳ」＊　２単位　選択　コア科目

「基礎フランス語Ⅲ」＊　２単位　選択　コア科目

「基礎フランス語Ⅳ」＊　　２単位　選択　コア科目
「基礎中国語Ⅲ」＊　　２単位　選択　コア科目
「基礎中国語Ⅳ」＊　　２単位　選択　コア科目
＊履修ガイドの外国語の履修に関する注意を読んでおくこと。

(4)　情報機器の操作　２単位
「情報処理学(1),(2)」　　各１単位　選択　コア科目
「情報処理演習(1),(2)」＊　　各１単位　必修　コア科目
＊生活科学部学生は「情報処理演習(1),(2)　生活Ａ」「情報処理演習(1),(2)　生活Ｂ」「情報処理演習(1),(2)　生活Ｃ」「情報処理演習(1),(2)　生活Ｄ」のいずれかを履修するが、所属によって受講する授業は決まっている。
「情報処理演習(1),(2)」は１年次に履修すること。

３．教職に関する科目（必修）

中学校教員の最低修得単位数は31、高等学校教員の最低修得単位数は27である。

(1)　教職の意義等に関する科目
中学校教員（２単位）　高等学校教員（２単位）
「教職概論（中等）(1),(2)」　　各１単位　必修　　１年次に修得しておくこと

(2)　教育の基礎理論に関する科目
中学校教員（６単位）　高等学校教員（６単位）
「教育原論（思想・歴史）(1),(2)」　　各１単位　必修
「教育原論（社会・制度）(1),(2)」　　各１単位　必修
「教育心理」　　２単位　必修

(3)　教育課程及び指導法に関する科目
中学校教員（12単位）　高等学校教員（10単位）
「教育課程論」　　２単位　必修
「各教科教育法」＊　　４単位　必修
＊「各教科教育法」は必ず「家庭科教育法Ⅰ」、「家庭科教育法Ⅱ」（各２単位）を３年次に履修すること。「家庭科教育法Ⅲ」、「家庭科教育法Ⅳ」は選択科目であり、教育実習の履修要件ではないが、出来る限り履修することが望ましい。
「特別活動の研究（中等）」　　２単位　必修
「教育方法論」　　２単位　必修
「道徳教育の研究（中等）」＊＊　２単位　中学校のみ
＊＊高等学校教員免許のみを志望する学生が「道徳教育の研究（中等）」を修得した場合も「教科または教職に関する科目」の単位になる。

(4)　生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目
中学校教員（４単位）　高等学校教員（４単位）
「生徒指導の研究（中等）(1),(2)」　　各１単位　必修
「学校カウンセリング（中等）」　２単位　必修

(5)　教職実践演習　　中学校教員（２単位）　高等学校教員（２単位）
「教職実践演習（中等）」　　２単位　必修　教育実習終了後、必ず履修すること

(6)　教育実習＊　　中学校教員（５単位）　高等学校教員（３単位）
「事前・事後指導（中等）」　　１単位　必修
「教育実習（中等）」　　中学校教諭４単位（３週間）、高等学校教諭２単位（２週間）
＊４年次に行う。

注意
(1)　１年次に履修する科目及び履修できる科目
・「教職概論（中等）(1),(2)」「教育原論（社会・制度）(1)(2)」「道徳教育の研究（中等）」「教育原論（思想・歴史）(1),(2)」「教育課程論」「特別活動の研究（中等）」「教育方法論」「生徒指導の研究（中等）(1),(2)」
・隔年開講の教職の科目
(2)　履修年次の制限を設ける科目
１．原則として、２年次以上で履修する科目
「教育心理」「学校カウンセリング（中等）」
２．教育実習に出かける年の前年に履修する科目
「家庭科教育法Ⅰ」「家庭科教育法Ⅱ」
３．４年次後期に履修する科目
「教職実践演習（中等）」

４．教科に関する科目（必修）

免許法では中学校教員、高等学校教員ともに必修の単位数は20である。
必修単位には、中学校教諭は家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）を１単位以上、被服学（被服製作実習を含む）を１単位以上、食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）を１単位以上、住居学を１単位以上、保育学（中：実習を含む）を１単位以上、含まなければならない。
高等学校教諭では家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）を１単位以上、被服学（被服製作実習を含む）を１単位以上、食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）を１単位以上、住居学（高：製図を含む）を１単位以上、保育学（高：実習及び家庭看護学を含む）を１単位以上、家庭電気・機械および情報処理を１単位以上、含まなければならない。
必修単位は下記の科目を履修して修得する。本学部では◎がついている科目は必修である。

(1)　家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

◎「家族関係論」　２単位　必修　生活社会科学主プログラム科目

◎「家政経済学概論」　２単位　必修　生活社会科学主プログラム科目

(2)　被 服 学（被服製作実習を含む。）

◎「被服学概論」　２単位　必修　生活文化学主プログラム科目

「被服製作実習」＊　１単位　生活文化学主プログラム科目

「服飾制作実習」＊＊　１単位　生活文化学強化プログラム科目

被服製作実習の単位は必ず修得しなければならない。

＊発達臨床心理学または生活社会科学を主プログラムとして選択した学生は、２～３年次に「被服製作実習」を修得すること。（１年次に修得することは不可。）

＊＊生活文化学を主プログラムとして選択した学生は専門教育科目「服飾制作実習」を修得すると被服製作実習の単位に当てられる。

(3)　食 物 学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

◎「食物学概論」　２単位　必修　学部共通科目

「調理実習」＊　１単位　教職共通科目

「基礎調理学実習」＊＊　１単位　食物栄養学科専攻科目

調理実習の単位は必ず修得しなければならない。

＊発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座は２年次に教職共通科目「調理実習」を修得すること。

(4)　住 居 学（高等学校教員では製図を含む。）

◎「住居学概論」　２単位　必修　学部共通科目　人間・環境科学主プログラム科目

◎「建築環境計画論」　２単位　必修　学部共通科目　人間・環境科学強化プログラム科目

(5)　保 育 学

（中学校教員では実習を含む、高等学校教員では実習及び家庭看護学を含む。）

◎「児童学概論」　２単位　必修　発達臨床心理学主プログラム科目

◎「家庭看護学」　２単位　必修　発達臨床心理学主プログラム科目

◎「保育実践論」　２単位　必修　発達臨床心理学主プログラム科目

(6)　家庭電気・機械及び情報処理＊（高等学校教員のみ）

◎家庭機械及び家庭電気　２単位　必修　教職共通科目

情報科目として下記のものから１科目以上を履修しなければいけない。

「応用統計学」　２単位　学部共通科目　人間・環境科学主プログラム科目

「応用生活統計学(1), (2)」　各１単位　生活社会科学主プログラム科目

「社会統計学Ⅰ」　２単位　生活社会科学主プログラム科目

「社会統計学Ⅱ(1), (2)」　各１単位　生活社会科学強化プログラム科目

「心理統計法（理論）」「心理統計法（実践）」

各２単位　発達臨床心理学主プログラム科目

＊中学校教員免許では所要単位に含まれないため、この区分の科目以外のもので、中学校教員免許に必要な単位を満たさなければならない。

５．教科または教職に関する科目（選択必修）

中学校教員は８単位、高等学校教員は16単位を下記の科目で修得しなければならない。

(1)　家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

「生活経営学」　２単位

「生活法学」「比較家族思想史」「老年学」

各２単位　生活社会科学強化プログラム科目

「消費者経済学」「家族法」　各２単位　生活社会科学主プログラム科目

「家族社会学(1), (2)」　各１単位　生活社会科学主プログラム科目

「生活経済学」「消費者教育論」「労働経済学総論」

各２単位　生活社会科学強化プログラム科目

(2)　被 服 学（被服製作実習を含む。）

「服飾文化概論」「服飾美学概論」　各２単位　生活文化学主プログラム科目

「日本服飾史演習Ⅰ」「服飾文化論基礎演習」

各２単位　生活文化学主プログラム科目

「服飾史Ⅰ」「服飾史Ⅱ」「服飾史論(1), (2)」「服飾史資料論(1), (2)」「服飾文化各論」

「服飾美学各論」「服飾文化論演習」「西洋服飾論」「日本服飾論」「日本服飾史演習Ⅱ」

各２単位　生活文化学強化プログラム科目

「服飾文化実習」　１単位　生活文化学強化プログラム科目

(3)　食 物 学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

「国際栄養学」　２単位　学部共通科目

「公衆栄養学」「調理科学」「食品製造・保存学」「食品衛生学」「食品化学」「食品機能論」

各２単位　食物栄養学科専攻科目

(4)　住 居 学（高等学校教員では製図を含む。）

「環境衛生学(1), (2)」　２単位　学部共通科目　人間・環境科学強化プログラム

「機器分析演習(1), (2)」　２単位　人間・環境科学主プログラム科目

「建築環境工学」「環境材料物性(1), (2)」

各２単位　人間・環境科学強化プログラム科目

(5)　保 育 学

（中学校教員では実習を含む、高等学校教員では実習及び家庭看護学を含む。）

「人間関係学」「発達臨床基礎論Ⅰ」「発達臨床基礎論Ⅱ」「発達臨床基礎演習Ⅱ」
「発達臨床心理学Ⅱ」　　各２単位　発達臨床心理学主プログラム科目
「保育臨床実習」「心理臨床学」「児童社会文化論」「家族療法」「児童文化論」
　　各２単位　発達臨床心理学強化プログラム科目

(6)　家庭電気・機械及び情報処理＊（高校教員のみ）

「応用統計学」　　２単位　学部共通科目　人間・環境科学主プログラム科目
「応用生活統計学(1), (2)」　　各１単位　生活社会科学主プログラム科目
「社会統計学Ⅰ」　　２単位　生活社会科学主プログラム科目
「社会統計学Ⅱ(1), (2)」　　各１単位　生活社会科学強化プログラム科目
「心理統計法（理論）」「心理統計法（実践）」
　　各２単位　発達臨床心理学主プログラム科目

＊中学校教員免許では所用単位に含まれないため、この区分の科目以外のもので、中学校教員免許に必要な単位を満たさなければならない。

(7)　そ の 他

「道徳教育の研究（中等）」を高等学校教員免許のみを志望する学生が修得した場合は「教科または教職に関する科目」の単位になる。

「学校インターンシップ」「日本語非母語話者年少者教育学概論」を履修すると「教科または教職に関する科目」の単位になる。

６．介護等体験（中学校教諭のみ）

３年次に特別支援学校で２日間、社会福祉施設で５日間行う。

学芸員資格

１．学芸員とは

「博物館法」で定められた、国家資格です。博物館の専門的職員のことです。

２．学芸員の資格取得

学芸員の資格を取得するには、次の科目を履修することが必要です。

(1)　必修科目

文教育学部で開講される科目：

生涯学習概論(1)・(2)（２）　博物館概論（２）　博物館経営論（２）　博物館資料論（２）
博物館資料保存論（２）　博物館展示論（２）　博物館教育論（２）
博物館情報・メディア論（２）　博物館実習（３）

以上９科目19単位をすべて履修すること。

(2)　選択科目（生活科学部と文教育学部で開講される科目）

以下の表に従い、生活科学部人間生活学科の学生は文化史・美術史・考古学・民俗学の中から、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科の学生は物理学・化学・生物学・地学の中から２系列以上にわたって８単位以上を履修すること。

文　化　史	文化人類学特殊講義　民族誌学特殊講義　比較生活文化史Ⅰ 比較生活文化史Ⅱ 日本史概説　アジア史概説 西洋史概説 日本古典文学史論（上代）　日本古典文学史論（中古） 日本古典文学史論（中世）　日本古典文学史論（近世） 日本近代文学史論（近代）　日本近代文学史論（現代）	いずれも ２単位
美　術　史	美術史学特殊講義Ⅰ～Ⅲ 美術史学演習Ⅰ～Ⅲ 形象分析学特殊講義Ⅰ～Ⅲ 形象分析学演習Ⅰ～Ⅲ 西洋美術史ＡⅠ～ＡⅢ、ＢⅠ～ＢⅢ 東洋美術史ＡⅠ～ＡⅢ、ＢⅠ～ＢⅢ 工芸史 生活造形史	美術史学特殊講義Ⅰ～Ⅲ〜形象分析学演習Ⅰ～Ⅲ：各４単位 西洋美術史ＡⅠ～ＡⅢ〜東洋美術史ＡⅠ～ＡⅢ：各２単位 ２単位 ２単位

考　古　学	考古学通論Ⅰ 考古学通論Ⅱ 歴史考古学 史跡調査		いずれも２単位
民　俗　学	服飾史論(1),(2) 服飾史資料論(1),(2) 服飾史Ⅰ 服飾史Ⅱ	民俗文化史概論(1),(2) 民俗文化史各論 歴史民俗文化論(1),(2) 民俗学	いずれも２単位
物　理　学	物理学概論Ａ 物理学概論Ｂ 古典力学(1),(2) 電磁気学Ⅰ(1),(2)		いずれも２単位
化　　学	基礎化学Ａ 基礎化学Ｂ(1),(2) 無機化学Ⅰ 有機化学Ⅰ		いずれも２単位
生　物　学	基礎生物学Ａ 基礎生物学Ｂ 動物系統学 植物形統学		いずれも２単位
地　　学	宇宙・地球科学 大気・海洋科学概論 地史・古生物学概論 地球環境科学		いずれも２単位

※次の科目は、生活科学部で開講されています：比較生活文化史Ⅰ、比較生活文化史Ⅱ、工芸史、生活造形史、服飾史論(1),(2)、服飾史資料論(1),(2)、服飾史Ⅰ、服飾史Ⅱ、民俗学、民俗文化史概論(1),(2)、民俗文化史各論、歴史民俗文化論(1),(2)

３．履修上の注意

・以上の科目は、第１年次から計画的に履修してください。博物館概論から履修するのが望ましいです。

・「博物館実習」（３単位）は基本的に、第４年次に行ってください。(※実質的な履習は前年度に始まります。掲示に注意して下さい。)

・不明な点がある場合は、生活文化学講座の担当教員、または学務課教務担当へ。

社会調査士資格

１．社会調査士資格制度の概要

私たちは社会の動向を知るうえで、いわゆる世論調査やアンケート調査、インタビューなどの「社会調査」の結果を参考にすることがしばしばあります。また、専攻領域によっては、研究レポートや卒業論文の作成にあたり、自分自身で社会調査をおこなうこともあるでしょう。社会調査はたいへん便利なツールではありますが、「誰に・何を・どのように聞くのか」、そして収集した調査データを「どのように解析するのか」により、同じテーマについて調べても、まったく正反対の結論が導かれることがあり、安易に利用することは事実をゆがめる危険性もともなっています。情報化社会といわれる現代において、社会調査に関するより正確な理解と活用法を身につけた人材に対して、研究領域のみならず、行政や企業などからの需要も高まっています。

このような社会的要請を受けて、2003年秋、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の三学会の連携により「社会調査士資格制度」が発足し、「一般社団法人 社会調査協会」（2008年12月24日までの組織名称は「社会調査士資格認定機構」）によりカリキュラム認定や資格認定がおこなわれるようになりました。現在では、本学も含め、全国百数十校の大学で本資格の取得が可能となっています。

なお、資格制度の詳細については、以下の「一般社団法人 社会調査協会」のウェブサイトをご覧ください。

http://jasr.or.jp/

２．本学での運営組織と教育課程

2-1．課程運営組織

現在、この資格取得に関わっている講座・コースは、文教育学部人間社会科学科の社会学コース、教育科学コース、心理学コース、人文科学科の地理学コース、グローバル文化学環、生活科学部人間生活学科の生活社会科学講座、発達臨床心理学講座です。

2-2．資格認定のための必履修科目

社会調査士資格認定のためには、以下の７カテゴリー中６カテゴリー（ＥとＦはいずれか一方）の単位を取得する必要があります。Ａ～Ｇの名称は社会調査協会が示した標準的な名称であり、本学においてこれらに対応する具体的な科目名は、次ページに一覧表に示しましたので、確認してください。

Ａ．社会調査の基本的事項に関する科目（15週）　２単位
Ｂ．調査設計と実施方法に関する科目（15週）　２単位
Ｃ．基本的な資料とデータの分析に関する科目（15週）２単位
Ｄ．社会調査に必要な統計学に関する科目（15週）　２単位

E．多変量解析の方法に関する科目（15週）　２単位
F．質的な調査と分析の方法に関する科目（15週）　２単位
G．社会調査を実際に経験し学習する科目（30週）　４単位

2-3．期待される教育効果

教育面では、社会調査の手法を学ぶことを通して、社会的現象に関する実証科学的な見方・考え方の習得が可能となります。みずから調査を企画する場合はもちろんですが、マスメディアや官公庁、企業などの実施した調査データを正しく、批判的に解読する能力が身につくことでしょう。

新しい資格であるだけに、就職面でどれほど評価されるかは正しい判断はできませんが、シンクタンク、調査会社、企業のマーケットリサーチ部門、マスコミの調査セクション、国家及び地方公務員などに就職した際には、必ず役に立つ資格です。

３．資格認定と単位取得後の手続き

標準カリキュラムに対応する科目を単位取得し、単位認定を受けることが必要です。ただし正規資格は学部卒業を要件としますので、在学中に一定の要件を充たすと「社会調査士（キャンディデイト）」を取得することができます。その際の審査・認定手数料は、従来は税込16,200円が必要でしたが、2015年度よりお茶の水女子大学として社会調査協会の教育組織会員となったために、税込14,000円に割引されることになりました。また、卒業時に「社会調査士（キャンディデイト）」から正規資格に変更する際には、資格変更手数料として税込5,400円が必要となります。キャンディデイト申請を行わずに卒業時に初めて正規資格申請を行うこともできます（審査・認定手数料、税込16,200円）。いずれの場合も、認定証を入手できるのは卒業後の６月ごろになります。キャンディデイト申請を行った場合は、３年次の10月もしくは12月に「社会調査士（キャンディデイト）」認定証が入手でき、就職活動などにも活用できるため、若干費用はかかりますが、３年次で要件を充たす人は前者の方法を採ることをお勧めします。

４．本学での2016年度の開講科目対応表

定められた科目の種類	2016年度の本学対応科目＊・担当講座・標準履修学年
A．社会調査の基本的事項に関する科目	**「人間科学論」**文教育学部・人間社会科学科・教育科学コース 対象学年：１年 **「現代社会論」**文教育学部・人間社会科学科・社会学コース 対象学年：１年以上
B．調査設計と実施方法に関する科目	**「社会調査の設計と実施」** 文教育学部・人間社会科学科・社会学コース 対象学年：１年以上 **「学校社会学特殊講義」** 文教育学部・人間社会科学科・教育科学コース 対象学年：１年以上
C．基本的な資料とデータの分析に関する科目	**「応用生活統計学(1)」「〃(2)」〔同一年度内に２科目履修〕** 生活科学部・人間生活学科・生活社会科学講座 対象学年：１年 **「人文地理学分析基礎演習」** 文教育学部・人文科学科・地理学コース 対象学年：２年
D．社会調査に必要な統計学に関する科目	**「社会統計学Ⅰ」**生活科学部・人間生活学科・生活社会科学講座 対象学年：２年以上 **「心理統計法」** 文教育学部・人間社会科学科・心理学コース 対象学年：２年
E．多変量解析の方法に関する科目	**「心理統計法（実践）」** 生活科学部・人間生活学科・発達臨床心理学講座 対象学年：３年 **「社会統計学Ⅱ(1)」「〃(2)」〔同一年度内に２科目履修〕** 生活科学部・人間生活学科・生活社会科学講座 対象学年：２年以上
F．質的な調査と分析の方法に関する科目	**「フィールドワーク方法論」**文教育学部・グローバル文化学環 対象学年：２年
G．社会調査を実際に経験し学習する科目	**「生活調査法」「生活社会調査実習」〔同一年度内に２科目履修〕** 生活科学部・人間生活学科・生活社会科学講座 対象学年：２・３年 **「社会調査法」**文教育学部・人間社会科学科・社会学コース 対象学年：２年以上 **「地理学フィールドワーク」「地理学フィールドワークＡ」** **〔同一年度内に２科目履修〕** 文教育学部・人文科学科・地理学コース 対象学年：３年

＊2015年12月に社会調査協会に科目認定の申請をした科目。2016年３月に認定結果が通知される。したがって、2016年１月現在では認定予定科目。なお、社会調査士資格取得者が大学院博士前期課程に入学した場合、さらに上位の「専門社会調査士」資格取得のための科目も開講している（2008年度より）。

消費生活アドバイザー資格

1．消費生活アドバイザー資格とは

(1)　消費生活アドバイザー制度

消費者と企業の間には、情報、技術、組織化レベルなど格差があり消費者問題が多発しています。一方、経営理念の中に「顧客満足」を前面に打ち出す企業が増加しつつあります。消費者のニーズを調査し、それに対応すると同時に、消費者相談窓口を強化し、消費者との双方向コミュニケーションを重視し経営に活かすことを志向する動きもあります。現代社会では、消費者問題の解決や被害の救済、相談、消費者についての制度設計をする人材が求められています。こうした要請に対応した資格として現在の日本には消費生活アドバイザー（1980年、内閣総理大臣および経済産業大臣認定資格）、消費生活コンサルタント（日本消費者協会の養成講座修了者）、消費生活専門相談員（国民生活センター実施の試験合格者）があります。

消費生活アドバイザー制度は、消費者と企業または行政等との“かけ橋”として、消費者の意向を企業経営、行政への提言に反映させたり、消費者からの苦情相談などに対して迅速かつ適切なアドバイスができる人材を養成する目的をもつ制度です。消費生活アドバイザーとは、消費生活アドバイザー試験に合格し、かつ一定の要件を満たし、消費生活アドバイザーの称号を付与された者をさします。消費生活アドバイザーは、次の役割をとおし、企業の消費者志向促進と消費者利益の確保に役立てるほか、複雑化する経済社会において賢い消費者の育成にもその能力の発揮が求められています。入社後、消費生活アドバイザーの資格取得を支援する企業も多いようです。

なお、上記の３つの資格の保持者を、同一の国家資格の名称保持者とみなす消費者支援資格制度の改革が現在進行中です。

(2)　消費生活アドバイザーの役割

消費生活アドバイザーは、主に企業や行政機関、各種団体等の消費者関連部門において消費者の苦情相談に応じるほか、消費者の意見や消費者動向を的確に把握して、商品・サービス等の開発、改善に反映させるなど幅広い活躍が期待されています。例えば、

１．商品・サービス等に関する苦情・相談に対する適切な対応・助言
２．商品の性能、安全性等に関する適切な情報提供・助言
３．商品開発・企画に関し、消費する立場からの提案・助言
４．消費者向けパンフレットや商品の取扱説明書、各種資料等の作成・チェック
５．その他、商品テスト、モニター、市場調査、取材等、消費者の意向を反映する提言等

などです。

2．消費生活アドバイザー資格取得を支援する履修方法

(1)　資格取得と履修の関係

資格取得には消費生活アドバイザー試験の合格が不可欠です。本学の対応科目履修によって自動的に資格が取得できるものではないことをあらかじめ注意してください。ただ、本学の科目履修によって消費生活アドバイザー試験のための体系的な学習が可能となりますので、資格取得のための支援という位置づけになります。１・２年生で履修し、３年次（秋）の受験をめざしていただきたいと思います。

学際プログラム「消費者学」を構成する科目群も、本資格の内容と密接に関連するものが多いです。

(2)　消費生活アドバイザー試験の分野と本学該当科目との対応

消費生活アドバイザー試験は第１次試験（択一試験）と第２次試験（論文試験、面接試験）に分けられます。第１次試験の分野と本学の該当科目は、次ページの表のように対応しています。また、第２次試験の論文試験のためには、小論文を作成する能力を身につける必要があります。

3．消費生活アドバイザー資格取得支援プログラムのスタッフ体制

支援プログラム長	生活科学部長		香西みどり
総括スタッフ	人間生活学科	生活社会科学講座	小谷　眞男
副総括スタッフ	人間生活学科	生活社会科学講座	斎藤　悦子
経済系	人間生活学科	生活社会科学講座	大森　正博
			斎藤　悦子
法律系	人間生活学科	生活社会科学講座	小谷　眞男
食生活	食物栄養学科		赤松　利恵
住生活	人間・環境科学科		元岡　展久
衣生活	人間・環境科学科		仲西　　正
医療・健康	保健管理センター		本田善一郎
環境問題	人間・環境科学科		大瀧　雅寛

消費生活アドバイザー試験範囲と対応する本学の関連科目の例（科目分割にともなう(1)(2)は省略）

消費生活アドバイザー試験の出題分野	コア科目（LA含む）	生活科学部学際プログラム「消費者学」	各学科・講座が提供する専門科目（主・強化プログラム）					他学部の科目
			食物栄養学科	人間・環境科学科	発達臨床心理学講座	生活社会科学講座	生活文化学講座	
1．消費者問題		消費者科学入門						
2．消費者のための行政・法律知識								
(1) 行政		消費者科学入門				生活と行政		
(2) 法律	法学Ⅱ（法学入門）	消費者科学入門、消費者法				生活関連法、生活法学		法学総論（文教育学部）
3．消費者のための経済知識								
(1) 経済一般	ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門	生活と財政、生活と金融、消費者経済学				生活と財政、生活と金融、消費者経済学		経済学総論（文教育学部）
(2) 企業経営一般		企業経営論				企業経営論		
(3) 生活経済		家政経済学概論				家政経済学概論、生活経済学		
(4) 経済統計と調査方法	マクロ経済学入門	社会統計学Ⅰ・Ⅱ、生活調査法、国民経済と生活		応用統計学		社会統計学Ⅰ・Ⅱ、生活調査法、国民経済と生活		
(5) 地球環境問題・エネルギー需給		環境衛生学		環境衛生学、環境科学、建築設備学				
4．生活基礎知識								
(1) 医療と健康		医療と健康、消費者経済学				消費者経済学		
(2) 社会保険と福祉		社会保障論				社会保障論、社会福祉学		
(3) 余暇生活								
(4) 衣服と生活		被服学概論						
(5) 食生活と健康		食物学概論、国際栄養学	栄養行政学*)					
(6) 住生活と快適空間		住居学概論、建築環境計画論		住居学概論、建築環境計画論・住生活論		住生活論		
(7) 商品・サービスの品質と安全性		消費者科学入門						
(8) 広告と表示		消費者科学入門						
(9) 暮らしと情報		消費者科学入門						

*）「栄養行政学」は他学科他講座の学生は受講できない。

（留意事項）資格試験の範囲と本学関連科目との対応関係は、非常にゆるやかなものです。「対応する科目」とは、当該出題分野に関連する内容が何らかの形で含まれている科目、という程度に理解してください。各科目は、資格試験とは全く独立に、研究・教育カリキュラム体系の観点から設定されています。本学の対応関連科目を履修すれば当該分野の試験問題がすべて解ける、というわけではありません。

4．消費生活アドバイザー資格試験について

消費生活アドバイザー資格は、以下の試験を合格し、実務研修の後、付与されます。

取得後、5年間有効で、更新が可能です。更新のためには、有効期限内に日本産業協会主催の「消費生活アドバイザー更新講座」の受講（90分の講座を1単位として、4つ以上受講）が必要となります。

(1) 消費生活アドバイザー試験と取得まで

消費生活アドバイザー試験

試験は、内閣総理大臣および経済産業大臣認定事業として、財団法人日本産業協会が行っています。

2015年の場合は受験料は12,960円でした。

第1次試験（択一問題）10月初旬

第1次試験合否発表　11月初旬

第2次試験（論文・面接）11月末

第2次試験合否発表　2月初旬

実務研修：2月下旬（実務経験を有しない人を対象、4日間、有料）

消費生活アドバイザーの称号付与申請：合格証、「経歴書」または「実務研修修了証」をそえて申請（申請手数料10,800円）します。

「経歴書」：実務経験を有していることを証明する。

実務経験とは、国または地方公共団体、企業、各種団体で、以下に示す消費者関連担当部門に1年以上にわたり週2日以上従事した経験。

・消費者に直接対応している部門の業務（販売部門を含む）

・消費者向け広報に関する部門の業務

・消費者関連製品の開発・企画に関する部門の業務

・消費者関連商品テストに関する部門の業務

・上記に関連する業務で、協会が消費者関連部門と判断した業務

認定日　4月1日

(2) 消費生活アドバイザー試験の構成

第1次試験（以下の各分野についての問題：択一式）

1．消費者問題

2．消費者のための行政・法律知識（行政知識、法律知識）

3．消費者のための経済知識（経済一般知識、企業経営一般知識、生活経済、経済統計と調査方法の知識、地球環境問題・エネルギー需給）

4．生活基礎知識（医療と健康、社会保険と福祉、余暇生活、衣服と生活、食生活と健康、住生活と快適空間、商品・サービスの品質と安全性、広告と表示、暮らしと情報）

＊合格基準　平均正解率　65％

第２次試験

① 論文試験

第１次試験（択一試験）の出題範囲を次の２グループに分け、それぞれのグループより各１問選択

第１グループ　消費者問題、行政知識、法律知識２問（特定商取引に関する法律関連、その他の消費者法関連）

第２グループ　経済一般知識、企業経営の一般知識、生活経済、地球環境問題・エネルギー需給

＊合格基準　出題の理解力、課題の捉え方、表現力などを審査し、選択した２題それぞれが５段階評価（Ａ～Ｅ）のＣ以上

② 面接試験

次の事項を審査（１人15分程度の個人面接）

択一試験範囲での知識を総合的に駆使して問題を処理する能力

誠実、円満、機密を守れるなどの資質

消費生活アドバイザーとしてふさわしい態度、積極性、見識

＊合格基準　面接委員の総合評価が３段階評価（Ａ～Ｃ）のＢ以上

(3) 最近の受験者・合格者（2015年）

受験申請者	2457人	通常試験	2332人	第１次試験免除者＊125人
受験者				
第１次受験者	2025人	第１次合格者	645人	
第２次受験者	738人	合格者	461人	
最終合格者	461人	最終合格率	21.6%	

＊第１次試験免除：当該年度の試験において、第１次試験に合格した人は、次年度受験に限り、第１次試験が免除されます。

10. 生活科学部 学部共通図書室の案内

生活科学部には、各学科・講座の図書室のほかに、学部共通図書室が３つあります。目的に応じて存分にご活用ください。

学部共通図書室（大学本館208室）

学部生全体のための資料室です。

とくに紙媒体の雑誌のバックナンバーや、家政学関係の文献・資料があります。

分室１：家庭科教員キャリアコース関連資料室（生活科学部本館2-267室）

家庭科教育に関する文献や資料を集めた資料室です。

教育実習生の授業計画作成に役に立つ参考資料類が豊富に揃っています。

家庭科教育に関わる卒論を作成する際の資料探索などにも活用できるでしょう。

自習スペースとしても自由に使えます。

分室２：消費生活アドバイザー資格取得支援プログラム資料室（生活科学部本館2-268室）

消費者学に関する文献や資料を集めた資料室です。

消費生活アドバイザー資格取得のための教科書や参考書類が揃っています。

資格試験受験のための公式テキストや、「過去問」の最新版もあります。

消費者問題や消費者学に関する卒論作成の際などにも活用できるでしょう。

自習スペースとしても自由に使えます。消費者学に関する講義や演習にも使用します。

分室１と分室２は、学生ロッカー室の上の階にあります。

学部共通図書室の利用は附属図書館カウンターに依頼してください。出納は図書館スタッフが行います。（後日連絡の場合もあり）

分室１・２の出入口の扉には、暗証番号方式のカギがかかっています。暗証番号は、所属の学科・講座の助手室などで教えてもらってください。

どの部屋にもコピー機は設置されていません。しかし、文献・資料類をコピーするための一時持ち出しは認めます。所定のノートに必要事項などを記入して持ち出し、その日のうちに元の棚に戻しておいてください。学部共通図書室の出納は、図書館スタッフが行います。

学部共通図書室に関する問合せ先

人間生活学科・生活文化学講座　宮内　貴久（miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp）

11. 生活科学部教員一覧（平成28年度）

◎…学部長　☆…学科長　○…講座主任

食物栄養学科

	氏名	専門	オフィスアワー	研究室部屋番号	メールアドレス
◎	香西みどり	調理学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟410室	kasai.midori@ocha.ac.jp
	鈴木恵美子	応用栄養学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟613室	suzuki.emiko@ocha.ac.jp
	須藤　紀子	公衆栄養学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟311室	sudo.noriko@ocha.ac.jp
	藤原　葉子	栄養化学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟406室	fujiwara.yoko@ocha.ac.jp
	村田　容常	食品貯蔵学	概ね平日８：30～９：30	総合研究棟510室	murata.masatsune@ocha.ac.jp
☆	赤松　利恵	栄養教育学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟509室	akamatsu.rie@ocha.ac.jp
	飯田　薫子	生活習慣病学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟309室	iida.kaoruko@ocha.ac.jp
	森光康次郎	食品機能化学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟507室	morimitsu.yasujiro@ocha.ac.jp
	市　育代	臨床栄養学	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟407室	ichi.ikuyo@ocha.ac.jp
	佐藤　瑶子	給食経営管理論	概ね平日12：20～13：00	総合研究棟410室	sato.yoko@ocha.ac.jp

人間・環境科学科

	氏名	専門	オフィスアワー	研究室部屋番号	メールアドレス
	松浦　秀治	自然人類学・文化財科学	前期：水曜９：00～10：00 後期：水曜11：00～12：00	総合研究棟609室	matsura.shuji@ocha.ac.jp
	仲西　正	材料物性・高分子化学	木曜13：00～15：00	総合研究棟708室	nakanishi.tadashi@ocha.ac.jp
	太田　裕治	人間工学・福祉工学	月曜13：00～15：00	総合研究棟809室	ohta.yuji@ocha.ac.jp
☆	大瀧　雅寛	環境衛生工学	月曜13：30～15：00	総合研究棟710室	otaki.masahiro@ocha.ac.jp
	元岡　展久	建築意匠論・建築設計学	火曜11：00～12：00	総合研究棟811室	motooka.nobuhisa@ocha.ac.jp
	長澤　夏子	建築計画学	木曜13：00～14：00	総合研究棟807室	nagasawa.natsuko@ocha.ac.jp
	近藤　恵	自然人類学・人類年代学	火曜10：40～12：30	総合研究棟611室	kondo.megumi@ocha.ac.jp
	中久保豊彦	環境評価学	月曜11：00～12：00	総合研究棟707室	nakakubo.toyohiko@ocha.ac.jp
	小崎　美希	建築環境計画学	木曜12：00～13：00	総合研究棟706室	kozaki.miki@ocha.ac.jp

人間生活学科

発達臨床心理学講座

	氏名	専門	オフィスアワー	研究室部屋番号	メールアドレス
	藤田　宗和	非行臨床・心理査定	木曜12：20～13：20	大学本館350室	fujita.munekazu@ocha.ac.jp
	篁　倫子	発達臨床心理学・発達障害	金曜12：00～13：30	大学本館348室	takamura.tomoko@ocha.ac.jp
	柴坂　寿子	子ども行動学	前期金曜12:20～13:20・ 後期木曜15:00～16:00	大学本館349室	shibasaka.hisako@ocha.ac.jp
○	浜口　順子	保育学、幼児教育学	金曜12：20～13：10	大学本館343室	takeuchi.hamaguchi.junko@ocha.ac.jp
	小玉　亮子	教育学・子ども社会学	木曜12：30～13：20	生活科学部本館２ 364	kodama.ryoko@ocha.ac.jp
	青木紀久代	生涯発達臨床心理学　保育・学校臨床	火曜12：20～13：20	大学本館342室	aoki.kikuyo@ocha.ac.jp
	伊藤亜矢子	学校臨床心理学、コミュニティ心理学	火曜12：20～13：20	大学本館332室	ito.ayako@ocha.ac.jp
	岩壁　茂	臨床心理学、心理療法学	木曜12：20～13：10	大学本館333室	iwakabe.shigeru@ocha.ac.jp
	刑部　育子	発達心理学、幼児教育学	前期火曜15:00～16:00 後期木曜17:00～18:00	大学本館337室	gyobu.ikuko@ocha.ac.jp

生活社会科学講座

	氏名	専門	オフィスアワー	研究室部屋番号	メールアドレス
	杉田　孝夫	政治学・政治思想史	月曜11：00～13：00	大学本館302室	sugita.takao@ocha.ac.jp
	藤崎　宏子	福祉社会学・家族社会学	木曜12：30～13：30	大学本館316室	fujisaki.hiroko@ocha.ac.jp
	石井クンツ昌子	家族社会学	木曜16：30～17：30	大学本館317室	ishii.kuntz.masako@ocha.ac.jp
	永瀬　伸子	労働経済学	前期金曜13:30～14:30 後期水曜11:00～12:00	大学本館309室	nagase.nobuko@ocha.ac.jp
	小谷　眞男	生活法学	月曜13：20～16：30	大学本館307室	kotani.masao@ocha.ac.jp
	大森　正博	公共経済学、産業組織、医療経済学	金曜15：00～16：30	大学本館308室	omori.masahiro@ocha.ac.jp
○	斎藤　悦子	生活経済学	月曜16：30～18：00	大学本館304室	saito.etsuko@ocha.ac.jp
	デ アウカンタラ マルセロ	家族法、比較法	火曜16：30～18：00	大学本館314室	marcelo.de.alcantara@ocha.ac.jp

生活文化学講座

	氏名	専門	オフィスアワー	研究室部屋番号	メールアドレス
	鈴木　禎宏	比較文化史・生活造形論	月曜16：40～17：30	大学本館328室	suzuki.sadahiro@ocha.ac.jp
☆○	宮内　貴久	日本民俗学	月曜12：15～13：15	大学本館327室	miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp
	難波　知子	日本服飾史	金曜12：15～13：15	大学本館323室	namba.tomoko@ocha.ac.jp
	新實　五穂	西洋服飾史	金曜12：15～13：15	大学本館326室	niimi.iho@ocha.ac.jp

生活科学部履修の手引き　平成28年度版

編　　集：お茶の水女子大学生活科学部カリキュラム委員会
香西みどり（学部長）、小谷眞男（委員長）、須藤紀子、
元岡展久、青木紀久代、鈴木禎宏、渡邊優希（学務課）

協　　力：飯田薫子、宮内貴久、小玉亮子、藤崎宏子

発　　行：お茶の水女子大学生活科学部

発行年月日：平成28年３月31日

11. 生活科学部教員一覧（平成28年度）

◎ 学部長　　○ 学科長　　△ 教務主任

生活科学科

氏名	専門	オフィスアワー	研究室内線番号	メールアドレス
浅井 一夫	環境学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	asai.kazuo@ocha.ac.jp
浦野 [illegible]	住居・建築	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	urano.[illegible]@ocha.ac.jp
岡崎 [illegible]	住居・建築	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
菅原 [illegible]	環境科学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	sugawara.[illegible]@ocha.ac.jp
杉山 [illegible]	住居学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	sugiyama.[illegible]@ocha.ac.jp
鈴木 [illegible]	生活経営学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	suzuki.[illegible]@ocha.ac.jp
高橋 [illegible]	生活経営学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	takahashi.[illegible]@ocha.ac.jp
中村 [illegible]	生活経営学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	nakamura.[illegible]@ocha.ac.jp
藤井 [illegible]	住居学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	fujii.[illegible]@ocha.ac.jp
堀内 [illegible]	生活経営学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	horiuchi.[illegible]@ocha.ac.jp
増田 [illegible]	住居・建築	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
宮崎 [illegible]	生活経営学	毎月第1・2・3・4週 [illegible]	[illegible]	miyazaki.[illegible]@ocha.ac.jp

人間・環境科学科

氏名	専門	オフィスアワー	研究室内線番号	メールアドレス
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp

人間生活学科

氏名	専門	オフィスアワー	研究室内線番号	メールアドレス
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp

生活科学部関係の学外非常勤講師　平成28年度版

氏名	専門	オフィスアワー	研究室内線番号	メールアドレス
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp

名誉性教授・客員教授

氏名	専門	オフィスアワー	研究室内線番号	メールアドレス
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp

人間文化学部関係

氏名	専門	オフィスアワー	研究室内線番号	メールアドレス
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]@ocha.ac.jp